

## 近世幕末期の江戸における立山信仰

—越中立山山麓芦峯寺衆徒の江戸の檀那場での廻檀配札活動—

福江 充\*

### はじめに

近世幕末期、越中立山山麓芦峯寺の衆徒が行った宗教活動において、その中核となっていたものは修験道の山中修行ではなく<sup>1)</sup>、むしろ加賀藩領国内外での廻檀配札活動や地元芦峯寺で執行された布橋灌頂会などの勸進活動であり、したがって幕末期の立山信仰の実像を捉える際には、この両者の分析を欠くことができない。

両者のうち布橋灌頂会に関する諸問題については、1970年代後半に五来重氏の論文<sup>2)</sup>が発表されて以降、約20年間膠着した状況にあったが、近年、岩鼻通明氏や筆者による論文<sup>3)</sup>の発表が契機となり、現在当該研究者の間で新たな展開が繰り返されつつある<sup>4)</sup>。しかし、一方の廻檀配札活動に関する諸問題については、これまで1970年代後半に寺口けい子氏や日和祐樹氏により研究が進められたもの<sup>5)</sup>、それ以降は膠着した状況のまま現在に至っている。

そこで本稿では、史料が比較的多く現存する近世幕末期を対象として、芦峯寺衆徒の廻檀配札活動について検討を試みたいと思う。その際、幕末期には芦峯寺各宿坊の檀那場は国内各地に形成され展開しているので、一時に全ての檀那場について分析・検討を進めることはきわめて困難である。それゆえ今回は研究のまず第一歩として、特殊な事例ではあるが、特に大都市江戸の場合に限定して検討を進めていきたい。

さて、芦峯寺日光坊所蔵の慶長9（1604）年の断簡文書から、規模は明らかではないが慶長期既に三河国や美濃国、尾張国の村々に芦峯寺衆徒による檀那場が形成されていたことが確認できる。そして近世後期には、芦峯寺衆徒は例えば、日光坊は尾張国、善道坊は三河国、宝泉坊は江戸といったように、国内各地でそれぞれの宿坊ごとに檀那場を形成し、毎年農閑期に檀那場へ赴き廻檀配札活動を行っていた<sup>6)</sup>。

このような状況下、幕末期、芦峯寺の38軒の宿坊のうち、江戸を檀那場とした宿坊は吉祥坊・宝泉坊・実相坊・相楽坊の4軒であり<sup>7)</sup>、これらの各宿坊の衆徒は毎年農閑期に江戸に赴き、同地で数カ月間滞在し、立山信仰を布教しながら勸進活動を行っていた

\* 富山県〔立山博物館〕

と伝えられている。このように、江戸が立山信仰の信仰圏であったことは以前から指摘されているが<sup>8)</sup>、各宿坊の御府内やその近郊におけるより具体的な配札地をはじめ、布教・勧進される側の檀那の実態や衆徒の勧進方法の実態などについては、近年筆者が宝泉坊の事例についてわずかに指摘した程度で<sup>9)</sup>、十分な研究がなされているとは言いがたい。

そこで本稿では、芦峯寺雄山神社に現存する未解説の吉祥坊と福泉坊の江戸に関する檀那帳や「芦峯寺一山会所蔵記録」として既に解説・校注が行われている宝泉坊の嘉永6(1853)年の檀那帳を使用し、まず第1章では、宝泉坊・吉祥坊・福泉坊の嘉永期の檀那帳の内容を解説・整理したものを表化して提示し、次に第2章では、表の内容を分析し、さらに前掲以外の江戸に関する檀那帳や檀那廻日記などの史料を使用し勧進方法の具体的事例を補足しながら、芦峯寺宿坊衆徒が江戸の檀那場で行った廻檀配札活動の構造を明らかにしていきたい。

終章では第2章の分析に基づき、芦峯寺宿坊衆徒が江戸の檀那場で行った廻檀配札活動の特徴を指摘したい。なお実相坊と相栄坊の廻檀配札活動の実態については、檀那帳などの関係史料が現存していないのでここではとりあげない。

## 1 江戸の檀那場を示す芦峯寺各宿坊の檀那帳

### A 芦峯寺宝泉坊の檀那帳

芦峯寺一山会所蔵として嘉永6(1853)年の宝泉坊衆徒泰音による江戸の檀那帳が現存している。その形態は横帳(15.0cm×20.5cm)である。表題は「御祈禱□」といった具合に末尾が磨耗しているが、その内容の最初の部分に「嘉永六丑年霜月 越中立山寶泉坊泰音(印と花押)」と記載され、またその手前に「御一新に付 立山旧神職佐伯左内 智憲ト改名 明治二年」と後筆されており、さらに、これらの記載の後に「東都檀那衆中様」として檀那名や檀那の住所が随時記載されているので、この檀那帳が江戸の檀那場を対象として宝泉坊衆徒泰音により嘉永6(1853)年に作成され、以後使用されたものであることや、明治に入り泰音の跡を継ぎ、同坊衆徒佐伯左内(生年未詳～明治30年没)がこれを使用していたことが確認できる。

この檀那帳に記載された内容の中から、配札地と檀那名を掲載順に全て書き出し、章末の第1表を作成した。また第1表に基づき、地域別の檀那数を整理して示したものが同じく章末の第2表である。ここで使用した区割りは、明治11(1878)年都区町村編成法の施行で定まった地域区分に基づいた。

## B 芦峠寺吉祥坊の檀那帳

芦峠寺雄山神社の所蔵として吉祥坊の檀那帳が2冊（写真1—①～③・写真2）現存している。写真1の檀那帳の形態は横帳（14.0cm×18.0cm）で、写真2の形態は手帳（ふところ帳8.5cm×18.0cm）である。もっとも、2冊とも掲載された檀那の住所から江戸の檀那場を対象としていることはすぐにわかるが、写真1の檀那帳（以下「檀那帳A」とする）については「御祈禱檀那帳〔 〕申歳 八月吉日」といった具合に、表題が部分的に磨耗し、また写真2の檀那帳（以下「檀那帳B」とする）については表題が全く記載されず、いずれも一見しただけでは吉祥坊のものとは即断することができない。これらの檀那帳が吉祥坊のものであることは、檀那帳Aの末尾に「目印覚」として、衆徒が檀那に頒布した護符の種類や数量を略記する際の凡例が記載され、さらに、その中の「木札」の事例を記した箇所に、木札の「奉修立山秘法供御武運長久如意満足祈所 吉上坊」といった文言が見られることから確認できるのである。そして、両方の檀那帳に記載された檀那名とその住所を比較するとほぼ合致するので、檀那帳Bも吉祥坊のものであることが確認できる。

ところで、以前、筆者は檀那帳Aの成立時期を明治6（1873）年としたが<sup>10）</sup>、これは当時の分析不足による誤った判断であり、ここで訂正したい。正確には、この檀那帳の成立時期は嘉永元（1848）年であり、その後、追記されながら明治6（1873）年までは使用されたと考えられる。その理由は次に示すとおりである。

まず、檀那帳Aに牛込御門神楽坂中程に在住として記載される檀那の国領正太郎は、安政4（1857）年改訂の『市ヶ谷牛込絵図』（嘉永四亥冬新鑄安政四丁己年改 江戸麹町六丁目板元尾張屋清七）<sup>11）</sup>によると、檀那帳に記載されたとおり牛込御門神楽坂中程にその所在が記載されているが、万延元（1860）年改訂の『磔川牛込小日向絵図』（嘉永五子秋新刻 万延元申秋改正 麹町六丁目金鱗堂 板元尾張屋清七）<sup>12）</sup>においては国領正太郎は転居したようで同住所地には記載されず、別の人物が住んでいる。したがって万延元（1860）年以前の申年、すなわち嘉永元（1848）年か天保7（1836）年、或いは文政7（1824）年の内のいずれかの申年に、この檀那帳が成立したものと推測される。

次に、明治6（1873）年の『由緒書上帳 扣 立山元東神職』<sup>13）</sup>により天保8丁酉（1837）年の没年が確認できる吉祥坊衆徒の祥真について、天保3（1832）年の『當山若僧定書帳 芦峠寺若僧中』<sup>14）</sup>には、「西三月一日ニ濃州西田原ニて廻檀之砌、病死仕候。」と記載されており、この二点の史料から天保8（1837）年頃の吉祥坊の檀那場は美濃国であったことが窺われる。

以上、二つの内容を重ね合わせると、吉祥坊衆徒はこの檀那帳を天保8（1837）年以

降で万延元(1860)年以前の申年、すなわち嘉永元(1848)年に作成し、その後、追記しながら明治初期まで使用し続けたと考えられる。

一方、檀那帳Bの成立時期については、それに記載される檀那名や住所が檀那帳Aのそれとほぼ合致するので、檀那帳Aと比較的近い時期に作成されたものと推測される。また、前掲の檀那国領正太郎の住所が「牛込神楽坂上ル右の二軒目」と記されているので、檀那帳Aの場合と同様、この檀那帳も万延元(1860)年には既に成立していたことになる。さらに、文中に文久3(1863)年の事象の追記が見られるので、成立後、追記されながら使用されていたようである。

さて、檀那帳A・Bから、同坊衆徒<sup>16)</sup>が御府内の各地やその近郊で廻檀配札活動を行っていたことがわかるが、章末の第3表は檀那帳Aに記載された内容の中から、配札対象地・檀那名・頒布品・受納金を全て掲載順に書き出したものである。また同じく章末の第4表は檀那帳Aに記載された内容に基づき、江戸の檀那場での勧進活動の実態(檀那数・宿数・頒布品・祠堂金)について地域別に示したものである。その際に使用した区割りは、明治11(1878)年都区町村編成法の施行で定まった地域区分に基づいた。

### C 芦峯寺福泉坊の檀那帳

芦峯寺雄山神社の所蔵として福泉坊の嘉永元(1848)年の東都檀那帳(写真3—①~②)が現存している。その形態は横帳(12.0cm×16.5cm)で、表紙に「東都旦那帳 越中立山福泉坊 嘉永元申天 正月良辰」と記載されている。この檀那帳から、同坊衆徒が武蔵国の忍郡や足立郡、埼玉郡、葛飾郡、荏原郡、橋樹郡、都筑郡などの地域で廻檀配札活動を行っていたことが確認できるが、その他、江戸にも若干の檀那場を保有していた。章末の第5表は同檀那帳に記載された内容の中から、江戸の御府内とその近郊に限定して、同地域における具体的な配札地・檀那名・職業を掲載順に書き出したものである。



第1表 芦畔寺宝泉坊の江戸における檀那場（嘉永6年）

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	該当区
001	江戸霊岸島老ノ橋角	中沢屋藤兵衛	1		日本橋区
002	両国村松町元矢ノ倉	渡辺円齊	1		日本橋区
003	本船町	長沢屋由松	1		日本橋区
004	下谷車坂町	堺屋重兵衛	1		下谷区
005	下谷池之端仲ノ町	堺屋次兵衛	1		下谷区
006	上野広小路北大門町	乗物屋与兵衛	1		下谷区
007	下谷天神下	内田屋清吉	1		下谷区
008	浅草新寺町	伊勢屋太兵衛	1		浅草区
009	浅草阿部川町西ノ丁	亀田屋儀兵衛	1		浅草区
010	本郷金助町	小西寅吉	1		本郷区
011	浅草阿部川町	山形屋庄兵衛	1		浅草区
012	浅草並木町	寅屋徳右衛門	1		浅草区
013	浅草西仲町	伊勢屋金蔵	1		浅草区
014	浅草諏訪町	岡田屋平蔵	1		浅草区
015	本所石原町	伊勢屋彦兵衛	1		本所区
016	本所石原町	伊勢屋半兵衛	1		本所区
017	本所石原町	中村屋重兵衛	1		本所区
018	本所吉岡町1丁目	橋屋善蔵	1		本所区
019	本所相生町1丁目	近江屋孝左衛門	1		本所区
020	深川中木場吉永町	泉屋七郎兵衛	1		深川区
021	小網町2丁目	西村嘉兵衛	1		日本橋区
022	両国米沢町3丁目	地田屋治郎兵衛	1		日本橋区
023	深川北六間堀下ノ橋	沢田屋仁兵衛	1		深川区
024	本材木町1丁目角	伊賀屋甚右衛門	1		日本橋区
025	本材木町2丁目	中嶋屋平右衛門	1		日本橋区
026	裏芽場町薬師前	俵屋喜三郎	1		日本橋区
027	裏芽場町薬師前	伊勢屋太兵衛	1		日本橋区
028	日本橋通り3丁目	寿熊治郎	1		日本橋区
029	槇町中橋甘気茶屋の裏	藤田藤左衛門	1		日本橋区
030	深川門前町八幡様表門前	銚屋三郎兵衛	1		深川区
031	八丁堀亀島橋向長島町	網屋平八	1		京橋区
032	霊岸島中橋通り四日市町	徳島屋半助	1		日本橋区
033	霊岸島長崎町1丁目自身番横丁	中屋勘四郎	1		日本橋区
034	東湊町2丁目	丸屋弥吉	1		京橋区
035	鉄砲津本湊町	河内屋佐助	1		日本橋区
036	北八丁堀地藏橋火ノ見下	楯ヶ本三正	1		京橋区
037	南鍛冶町2丁目	中屋五郎兵衛	1		京橋区
038	南鍛冶町2丁目	武蔵屋金治郎	1		京橋区
039	桶町2丁目	三河屋善助	1		京橋区
040	京橋柳町	中屋幸助	1		京橋区
041	京橋立伊勢屋横丁	伊豆屋仁三郎	1		京橋区
042	新橋南紺屋町	阿波屋文左衛門	1		京橋区
043	新橋竹川町	岡田屋伝兵衛	1		京橋区
044	新橋北紺屋町金春屋舗	伊勢屋清八	1		京橋区
045	木挽町6丁目岸シ	丸屋藤兵衛	1		京橋区
046	山城岸甚兵衛店 尤同土橋向若松屋与申紺屋二而尋	伊勢屋与八	1		京橋区
047	芝井町新道通り	大坂屋嘉兵衛	1		芝区
048	宇田川町新道通り	毛爪屋重兵衛	1		芝区
049	宇田川町新道通り	丸屋清治郎	1		芝区
050	芝口3丁目	伊勢屋由右衛門	1		芝区

第1表一その2

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	該当区
051	芝金杉通り4丁目	三河屋長助	1		芝区
052	芝田町8丁目	和泉屋清兵衛	1		芝区
053	芝田町8丁目	遠州屋嘉助	1		芝区
054	芝田町9丁目	遠州屋徳兵衛	1		芝区
055	芝伊血子台町	萬屋安五郎	1		芝区
056	芝伊血子台町	萬屋権兵衛	1		芝区
057	芝三田1丁目	三河屋藤四郎	1	1宿	芝区
058	芝松本町1丁目	萬屋善吉	1		芝区
059	飯倉5丁目	萬屋小三郎	1		麻生区
060	西ノ窪吹出町	油屋安兵衛	1		芝区
061	西ノ窪神屋町	油屋甚七	1		芝区
062	西ノ窪神屋町白山	桶屋藤蔵	1		芝区
063	四谷伝馬町1丁目新道	福田屋新兵衛	1	1宿	四谷区
064	四谷伝馬町1丁目新道	近江屋源治	1		四谷区
065	内神田吉永町初蔵前	硝子屋新蔵	1		神田区
066	内神田龍眼町代地古金物屋裏 家主伊介店 但シ柏 屋伊助与申也	伊勢屋市右衛門	1		神田区
067	深川八幡表木場わぐら隣り 外神田佐久間町2丁目	山本屋嘉兵衛	1		神田区
068	外神田佐久間町2丁目筋遠橋	内田吉右衛門	1		神田区
069	山谷出はずれ	富士見茶屋久三郎	1		浅草区
070	新吉原江戸町1丁目	萬屋恒治郎	1		浅草区
071	新吉原大門外五十軒	夏萬屋庄治郎	1		浅草区
072	新吉原大門外	尾張屋久兵衛	1		浅草区
073	新吉原京町1丁目	松坂屋佐吉	1		浅草区
074	浅草諏訪町	富山屋伊右衛門	1		浅草区
075	浅草東仲町	伊勢屋治郎兵衛	1		浅草区
076	浅草並木町	上州屋彦右衛門	1		浅草区
077	浅草並木町	井坂屋忠兵衛	1		浅草区
078	田所町	大和屋半兵衛	1		日本橋区
079	田所町(同家主茂八字佐美裏)	高砂屋平吉	1		日本橋区
080	人形町杉森稲荷様門前 小舟町1丁目新道	左官忠七	1		日本橋区
081	小舟町1丁目新道	伊勢屋惣吉	1		日本橋区
082	浪花町裏小路	嶋屋常八	1		日本橋区
083	伝馬町2丁目市村裏	沢窪屋長蔵	1		四谷区
084	伝馬町新大坂町	伊勢屋金蔵	1		四谷区
085	本所老ツ目角	喜多村清兵衛	1		本所区
086	本所馬場	升屋七右衛門	1		本所区
087	日本橋元四日市	柏屋清兵衛	1		日本橋区
088	江戸橋四日市	沢窪屋清治郎	1		日本橋区
089	元浜町	伊勢屋治助	1		日本橋区
090	大伝馬町2丁目	升屋九蔵 隠居	1		四谷区
091	伝馬町2丁目	松村市三郎	1		四谷区
092	通塩町新道	伊勢屋栄蔵	1		日本橋区
093	堀留町2丁目 家主喜右衛門柳川ト申	塗師屋喜右衛門	1		日本橋区
094	田所町	伊勢屋伊三郎	1		日本橋区
095	橋町2丁目	大黒屋惣七	1		日本橋区
096	箱崎1丁目	京屋清兵衛	1		日本橋区
097	本所堅川柳原1丁目	鹿島屋平五郎	1		本所区
098	馬喰町浅草見付内	松村文蔵	1		日本橋区



第1表—その3

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	該当区
099	浅草東仲町	武蔵屋庄蔵	1		浅草区
100	神田富松町新道へ引越 元浜町河岸通り	伊勢屋栄助	1		神田区
101	浅草田原町3丁目 浅草北新町久太郎与申髪結床	吉見屋要助	1		浅草区
102	浅草北新町 浅草北馬道延命院寺内	魚屋源太郎	1		浅草区
103	芝飯倉3丁目	堺屋四郎兵衛	1		麻生区
104	本所大川端椎ノ木松浦様御屋敷内 麴町3丁目谷永井興之町子共同居	寿信尼	1		本所区
105	四谷新宿下町	三河屋勇次郎	1		四谷区
106	番町2丁目	富田屋幸次郎	1		麴町区
107	番町2丁目	大和屋源七	1		麴町区
108	深川富川町	鋳物師寅吉	1		深川区
109	芝口1丁目東側	平芝屋幸七	1		芝区
110	麴町13丁目	伊勢屋喜兵衛	1		麴町区
111	西ノ久保森手町	三淵屋儀兵衛	1		芝区
112	深川猿橋方江町	柿野屋伊兵衛	1		深川区
113	下谷練部小路	河野長十郎	1		下谷区
114	下谷御屋敷之内	加藤武右衛門	1		下谷区
115	下谷相生町新屋敷	深屋釜五郎	1		下谷区
116	芝神明町(森越中守屋敷)	森越中守	1		芝区
117	芝明神町(森越中守屋敷)	勝川貞	1		芝区
118	芝明神町(森越中守屋敷)	田中千太郎	1		芝区
119	芝明神町(森越中守屋敷)	九鬼筋之丞	1		芝区
120	芝明神町(森越中守屋敷)	笠原友次郎	1		芝区
121	愛宕下	片桐石見守	1		芝区
122	愛宕下神保小路(大沢主馬屋敷)	大沢主馬	1		芝区
123	愛宕下神保小路(大沢主馬屋敷)	飯谷豊之進	1		芝区
124	京橋柳町	海老屋清兵衛	1		京橋区
125	浅草東仲町	伊勢屋久右衛門	1		浅草区
126	浅草堀田原 三間市蔵林同居	布施弥市郎	1		浅草区
127	小石川富板新町金剛寺坂	新見内膳	1		小石川区
128	外桜田(松平河内守屋敷)	松平河内守	1		麴町区
129	外桜田(松平河内守屋敷)	松平市正	1		麴町区
130	外桜田(松平河内守屋敷)	但馬守	1		麴町区
131	外桜田(松平河内守屋敷)	銚之助	1		麴町区
132	外桜田(松平河内守屋敷)	於理毛	1		麴町区
133	外桜田(松平河内守屋敷)	高之進様	1		麴町区
134	外桜田(松平河内守屋敷)	竹井半右衛門	1		麴町区
135	外桜田(松平河内守屋敷)	興津三右衛門	1		麴町区
136	外桜田(松平河内守屋敷)	利行九右衛門	1		麴町区
137	外桜田(松平河内守屋敷)	加藤與五右衛門	1		麴町区
138	外桜田(松平河内守屋敷)	青木左膳	1		麴町区
139	表六番町(落合能登守屋敷)	落合能登守	1		麴町区
140	表六番町(落合能登守屋敷)	木村徳右衛門	1		麴町区
141	山王永田馬場(京極備中守屋敷)	京極備中守	1		麴町区
142	山王永田馬場(京極備中守屋敷)	右近将監	1		麴町区
143	山王永田馬場(京極備中守屋敷)	御奥	1		麴町区
144	山王永田馬場(京極備中守屋敷)	涼地院	1		麴町区
145	市谷(尾州御殿)	おさい(御取次)	1		牛込区
146	市谷(尾州御殿)	碓治(御取次)	1		牛込区

第1表—その4

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	該当区
147	市谷(尾州御殿)	山の井(御取次)	1		牛込区
148	下谷御徒町加藤様北長屋下西御丸御手先組	河野玄左衛門	1		下谷区
149	下谷中御徒町中程	小林茂十郎	1		下谷区
150	下谷三味線堀通り七軒丁立花飛脚守東門前	小田伊三郎	1		下谷区
151	下谷三筋町東通り	土田門嘉	1		下谷区
152	浅草堀田原組屋敷	三枝健市郎	1		浅草区
153	下谷練部小路山名様御屋敷隣り吉田氏前	梶田磯五郎	1		下谷区
154	下谷練部小路山名様御屋敷隣り吉田氏前	梶田勇治郎	1		下谷区
155	本所南割下水三笠町1丁目	陸田善五郎	1		本所区
156	裏茅場町	鈴木良庵	1		日本橋区
157	南八丁堀(本多下総守様御屋敷之内)	松井恕助	1		京橋区
158	南八丁堀5丁目(松平阿波守様御屋敷内)	長治川治兵衛	1		京橋区
159	南八丁堀5丁目(松平阿波守様御屋敷内)	武谷新之進	1		京橋区
160	南八丁堀5丁目(松平阿波守様御屋敷内)	福岡作藏	1		京橋区
161	南八丁堀5丁目(松平阿波守様御屋敷内)	長浜伝太郎	1		京橋区
162	南八丁堀5丁目(松平阿波守様御屋敷内)	武谷巨助	1		京橋区
163	南八丁堀5丁目(松平阿波守様御屋敷内)	村上四方吉	1		京橋区
164	南八丁堀5丁目(松平阿波守様御屋敷内)	岡座三郎	1		京橋区
165	南八丁堀5丁目(松平阿波守様御屋敷内)	佐坂錦治	1		京橋区
166	南八丁堀5丁目(松平阿波守様御屋敷内)	岩村太郎	1		京橋区
167	西御丸下(松平下総守様御屋敷之内)	岡木箕兵衛	1		麹町区
168	表貳番町(筒井肥前守様御屋敷内) 築地南飯田町	青砥秀治郎	1		麹町区
169	築地門跡裏備前橋前	鈴木宗斎	1		京橋区
170	飯倉4丁目	星野久春	1		麻生区
171	赤坂氷川明神様隣屋敷(本多豊前守様御屋敷内)	河野小十郎	1		赤坂区
172	赤坂田町5丁目	星野道節	1		赤坂区
173	浅草雷御門前日音院寺内 いろは長屋敷5番	江坂卜庵	1		浅草区
174	赤坂黒鍬谷丹後坂下通	広瀬亀十郎	1		赤坂区
175	赤坂(紀州様内)但シ辰巳口ヨリ	岡本鏖之進	1		赤坂区
176	四谷伝馬町3丁目	汽田屋伊之助	1		四谷区
177	上野国口〇郡 岩井村	原周次	1		上野国
178	西ノ久保吹出町	鶴屋久兵衛	1		芝区
179	木挽町6丁目	島屋久兵衛	1		京橋区
180	深川扇橋宮川町	尾張屋吉兵衛	1		深川区
181	山谷浅草町明神様先	筑波屋勘右衛門	1		浅草区
182	深川扇橋西町	堺屋伊右衛門	1		深川区
183	元大坂町 家主善之助店荒物屋	神田藤藏	1		日本橋区
184	麹町5丁目紀州様十太郎御門前	岩井源兵衛	1		麹町区
185	赤坂中殿町	大森平太夫	1		赤坂区
186	駒込追分細手組之内 但シ浄泉寺前	金子七郎右衛門	1		本郷区
187	根津池端ヨリ(佐竹様御屋敷之内)	岡崎丑之助	1		本郷区
188	根津池端ヨリ(佐竹様御屋敷之内) 御内	爪生頼母	1		本郷区
189	浪花町銀座新屋敷内	清水米三郎	1		日本橋区
190	本所松倉町	河合鉉吉	1		本所区
191	小梅在松倉町菜平橋北貳条様東隣り	川井六左衛門	1		本所区
192	築地(稲葉長門守様御屋敷内)	吉田六藏	1		京橋区
193	小川町(稲葉長門守様御屋敷内)	加藤鍊藏	1		神田区
194	小川町(稲葉長門守様御屋敷内)	杉本勝平	1		神田区
195	鉄炮洲(細川能登守様御屋敷内)	関口彦九郎	1		日本橋区



第1表—その5

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	該当区
196	鉄炮洲（細川能登守様御屋敷内）	新井保五郎	1		日本橋区
197	（稲葉長門守様築地中屋敷）	伊庭十蔵	1		京橋区
198	麴町3丁目	永井興之助	1		麴町区
199	深川森下町伊豫橋	石丸源五郎	1		深川区
200	大久保4丁目式ツ目 本所石原外手町日野左近同居	上原助左衛門	1		大久保村
201	北本所馬場町	即源寺庵主又ハ 佛母庵トモ申也	1		本所区
202	本所之先寺嶋	臥雲軒庵主	1		本所区
203	本所亀井戸村	宝性庵庵住	1		本所区
204	溜池（松平美濃守内）	西嶋亥之吉	1		赤坂区
205	溜池（松平美濃守内）	西嶋道悦	1		赤坂区
206	溜池（松平美濃守内）	西嶋専介（西嶋 道悦伴）	1		赤坂区
207	一藤堂様中屋敷西長屋下	近藤友吉	1		住所未詳
208	小川町淀家中	後藤房治郎	1		神田区
209	下谷佐竹様御屋敷	中嶋文吉	1		下谷区
210	根津宮永町内藤様御屋敷内	宮野雄左衛門	1		本郷区
211	（稲葉長門守様築地中屋敷）	長沢酉之助	1		京橋区
212	四谷伝馬町3丁目	池田屋伊之助	1		四谷区
213	小網町1丁目横町	豊田平八	1		日本橋区
214	西久保吹出町	菫屋久兵衛	1		芝区
215	桜田和泉町	井上勘助	1		芝区
216	瀬戸物町	山形屋庄三郎	1		日本橋区
217	麴町9丁目	宮村屋七兵衛	1		麴町区
218	麴町7丁目	三河屋金兵衛	1		麴町区
219	下谷和泉橋通青石横町加藤様裏門前	大沢新太郎	1		下谷区
220	高輪台町細川様前	山口屋音吉	1		芝区
221	高輪台町細川様前	大和屋源七	1		芝区
222	高輪竹町	伊勢屋長左衛門	1		芝区
223	高輪原庭	和泉屋才助	1		芝区
224	麴町3丁目谷	藤屋卯右衛門	1		麴町区
225	芝口3丁目	島屋甚七	1		芝区
226	本所中ノ郷竹町	下総屋友右衛門	1		本所区
227	下谷中御徒町	八木下友格	1		下谷区
228	下谷中御徒町	木村養哲	1		下谷区
229	住所未詳（三浦麟之助家来）	谷口録之助	1		住所未詳
230	住所未詳（三浦麟之助家来）	石井可	1		住所未詳
231	虎ノ御門内（三浦志摩守内）	石井徳左衛門	1		芝区
232	虎ノ御門内（三浦志摩守内）	道脩	1		芝区
233	（水野出羽守家来浜町中屋敷）	佐々木左源太	1		日本橋区
234	（水野出羽守家来浜町中屋敷）	井沢安次郎	1		日本橋区
235	小石川西富坂上御掃除組屋敷内	寺島丹蔵	1		小石川区
236	小石川西富坂上御掃除組屋敷内	那倉釣之助	1		小石川区
237	小石川西富坂上御掃除組屋敷内	同悦三郎	1		小石川区
238	小石川西富坂上御掃除組屋敷内	内田新助	1		小石川区
239	小石川西富坂上御掃除組屋敷内	小宮山録助	1		小石川区
240	小石川西富坂上御掃除組屋敷内	亀屋文六	1		小石川区
241	小石川西富坂上御掃除組屋敷内	釜屋伊兵衛	1		小石川区
242	小石川西富坂上御掃除組屋敷内	大和屋惣兵衛	1		小石川区
243	浜町（水野出羽守様御内）	酒井門太夫	1		日本橋区

第1表—その6

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	該当区
244	沼津藩中	井沢安次郎	1		住所未詳
245	(水野出羽守家来浜町中屋敷)	奥田鉄治	1		日本橋区
246	淀藩	津田新之丞	1		住所未詳
247	牛込高田馬場下 来迎寺	来迎寺現住忍静	1		牛込区
248	牛込高田馬場下 誓閑寺	誓閑寺現住縁順	1		牛込区
249	牛込高田馬場下 正覚寺	正覚寺現住良達	1		牛込区
250	牛込原町3丁目願昌寺裏	上原銀次郎	1		牛込区
251	麹町平川天神裏門前	三輪仁兵衛	1		麹町区
252	深川扇橋西町	丸屋茂左衛門	1		深川区
253	深川扇橋東町	阿波屋利兵衛	1		深川区
254	西ノ久保神谷町城山	大工伝吉	1		芝区
255	南本郷石原町梅堀	左官喜之助	1		本郷区
256	本郷石原片町	左官倉吉	1		本郷区
257	浅草花川戸町川岸	道了宮鏡泉院	1		浅草区
258	伊勢町中華亭	森谷萬兵衛	1		日本橋区
259	芝田町1丁目家主	近江屋久七	1		芝区
260	四谷新屋敷(戸田安之助様御下屋敷内)	大竹免毛彦	1		四谷区
261	小日向水道町大日坂の上 御賄組屋敷2丁目の横町	細井理右衛門	1		小石川区
262	新吉原京町1丁目	家主清右衛門	1		浅草区
263	日本橋数寄屋町	俵屋甚兵衛	1		日本橋区
264	赤坂裏伝馬町1丁目	柴屋喜右衛門	1		四谷区
265	四谷伝馬町2丁目	福田屋林兵衛	1		四谷区
266	伊勢町米川岸	富田屋彦四郎	1		日本橋区
267	築地上柳原町	尾張屋角蔵	1		京橋区
268	新橋山王町	三河屋久治郎	1		芝区
269	小石川伝通院前表町	栴屋与七	1		小石川区
270	深川東平野町	近江屋孝左衛門	1		深川区
271	牛込馬場下横町(亀井様下屋敷)	藤井由五郎	1		牛込区
272	(松平讃岐守内)	三笠平兵衛	1		住所未詳
273	(水野出羽守様内)	木岡保兵衛	1		住所未詳
274	(松平阿波守内)	森戸丞介	1		住所未詳
275	江戸小石川御笠筒町	尾張屋半七	1		小石川区
276	麹町6丁目	三河屋長三郎	1		麹町区
277	麹町6丁目	白井牧大	1		麹町区
278	本郷御弓町(宿所)	永井禄之助直毅 (永井太之丞)	1	1宿所	本郷区
279	松平和泉守様御家中(深川屋敷)	鈴木権太夫	1		深川区
280	松平和泉守様御家中(深川屋敷)	松平庄兵衛	1		深川区
281	松平和泉守様御家中(深川屋敷)	藤田勝馬	1		深川区
282	松平和泉守様御家中(深川屋敷)	川住市右衛門	1		深川区
283	松平和泉守様御家中(深川屋敷)	松平三郎次	1		深川区
284	松平和泉守様御家中(深川屋敷)	天野善太夫	1		深川区
285	松平和泉守様御家中(深川屋敷) 西尾へ引っ越し	桜井甚兵衛	1		深川区
286	松平和泉守様御家中(深川屋敷) 西尾へ引っ越し	今井直枝	1		深川区
287	松平和泉守様御家中(深川屋敷) 西尾へ引っ越し	近藤為之助	1		深川区
288	松平和泉守様御家中(深川屋敷) 西尾へ引っ越し	鈴木八平	1		深川区
289	松平和泉守様御家中(深川屋敷) 西尾へ引っ越し	田中紋兵衛	1		深川区
290	松平和泉守様御家中(深川屋敷) 西尾へ引っ越し	山本東十郎	1		深川区
291	松平和泉守様御家中(深川屋敷) 西尾へ引っ越し	川島彦兵衛	1		深川区
292	松平和泉守様御家中(深川屋敷) 西尾へ引っ越し	山本為三郎	1		深川区



第1表一その7

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	該当区
293	松平和泉守様御家中 (深川屋敷) 西尾へ引っ越し	山崎次郎兵衛	1		深川区
294	松平和泉守様御家中 (深川屋敷) 西尾へ引っ越し	藤巻六蔵	1		深川区
295	松平和泉守様御家中 (深川屋敷) 西尾へ引っ越し	斉藤真吾	1		深川区
296	松平和泉守様御家中 (深川屋敷) 西尾へ引っ越し	沼田象右衛門	1		深川区
297	松平和泉守様御家中 (深川屋敷) 西尾へ引っ越し	大竹久平	1		深川区
298	松平和泉守様御家中 (深川屋敷) 西尾へ引っ越し	野原徳造	1		深川区
299	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	小浜門次郎	1		深川区
300	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	長尾壮兵衛	1		深川区
301	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	須藤善兵衛	1		深川区
302	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	加藤菊蔵	1		深川区
303	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	藤巻平兵衛	1		深川区
304	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	浅岡安次郎	1		深川区
305	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	宇野作右衛門	1		深川区
306	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	今井衛守	1		深川区
307	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	柳瀬又右衛門	1		深川区
308	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	牧野誓之助	1		深川区
309	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	長谷川真吾	1		深川区
310	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	榊原三之助	1		深川区
311	松平和泉守様御家中 (深川屋敷)	柿本久五郎	1		深川区
312	牛込早稲田一橋屋敷内	大沢孫十郎	1		牛込区
313	牛込早稲田一橋屋敷内	西尾七右衛門	1		牛込区
314	牛込早稲田	大沢孫十郎	1		牛込区
315	牛込早稲田	浅井勇次郎	1		牛込区
316	牛込早稲田	杉本公次郎	1		牛込区
317	牛込早稲田	加藤欽之丞	1		牛込区
318	牛込早稲田	加藤直三郎	1		牛込区
319	牛込早稲田	八木甚左衛門	1		牛込区
320	牛込早稲田	柘植勘四郎	1		牛込区
321	牛込早稲田	御野藤内	1		牛込区
322	牛込早稲田	今村三蔵	1		牛込区
323	牛込早稲田	高木善之丞	1		牛込区
324	牛込早稲田	梅沢文平	1		牛込区
325	牛込早稲田	佐藤市左衛門	1		牛込区
326	牛込早稲田	小熊与喜丞	1		牛込区
327	高田御屋敷	尾島理左衛門	1		牛込区
328	深川御屋敷	沢田徳兵衛	1		深川区
329	深川御屋敷	小堀辰右衛門	1		深川区
330	松平和泉守内	伊東武左衛門	1		深川区
331	松平和泉守内	深津吉右衛門	1		深川区
332	松平和泉守内	鈴木彦右衛門	1		深川区
333	松平和泉守内	新美藤左衛門	1		深川区
334	新吉原	会所四郎兵衛	1		浅草区
335	新吉原	山村屋みゑ	1		浅草区
336	新吉原	升屋七右衛門	1		浅草区
337	新吉原	松屋おませ	1		浅草区
338	新吉原	駿河屋市兵衛	1		浅草区
339	新吉原	信濃屋善兵衛	1		浅草区
340	新吉原	飯屋長四郎	1		浅草区
341	新吉原	八幡屋おふじ	1		浅草区
342	新吉原	尾張屋五兵衛	1		浅草区

第1表—その8

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	該当区
343	新吉原	尾張屋太郎兵衛	1		浅草区
344	新吉原	升屋おひさ	1		浅草区
345	新吉原	永楽屋平蔵	1		浅草区
346	新吉原	中松屋普兵衛	1		浅草区
347	新吉原	桐屋佐兵衛	1		浅草区
348	新吉原	松屋新八	1		浅草区
349	新吉原	常盤屋おかめ	1		浅草区
350	新吉原	大黒屋又兵衛	1		浅草区
351	新吉原	大黒屋庄六	1		浅草区
352	新吉原	葛屋太兵衛	1		浅草区
353	新吉原	湊屋佐兵衛	1		浅草区
354	新吉原	大野屋熊次郎	1		浅草区
355	新吉原	一文字屋嘉兵衛	1		浅草区
356	新吉原	尾張屋喜三郎	1		浅草区
357	新吉原	東屯屋おもん	1		浅草区
358	新吉原	竹村伊兵衛	1		浅草区
359	新吉原	兵庫屋弥助	1		浅草区
360	新吉原	巴屋伝助	1		浅草区
361	新吉原	伊勢屋おとも	1		浅草区
362	新吉原	南部屋庄七	1		浅草区
363	新吉原	桐屋五兵衛	1		浅草区
364	新吉原	近江屋半四郎	1		浅草区
365	新吉原	山本屋金蔵	1		浅草区
366	新吉原	若松屋藤左衛門	1		浅草区
367	新吉原	亀島屋忠兵衛	1		浅草区
368	新吉原	松葉屋半蔵	1		浅草区
369	田町2丁目又ハ茶屋町共云云	桥九兵衛店伊勢屋三四郎	1		赤坂区
			369	3	

## 凡 例

- 一、同表は、芦舩寺宝泉坊の嘉永6年の檀那帳『御祈祷□』(芦舩寺—山会所蔵)に掲載された内容に基づき(『越中立山古記録Ⅱ』所収の解説・校注本を使用)、配札地と檀那名、人数、宿数、該当地区を整理し、掲載順に示したものである。
- 一、同表における区割りは、明治11年都区町村編成法の施行で定まった15区の区割りに基づくものである。
- 一、掲載番号は檀那帳のなかでの掲載順を示すが、本稿のなかでは第1表No□で表記する。



第2表 芦峠寺宝泉坊の江戸における地域別檀那数と宿数（嘉永6年）

廻檀地区	人数	宿数
日本橋区	42	0
赤坂区	9	0
本郷区	8	1
京橋区	30	0
麹町区	30	0
下谷区	17	0
神田区	8	0
四谷区	12	1
浅草区	60	0
芝区	38	1
牛込区	24	0
深川区	50	0
麻布区	3	0
小石川区	12	0
本所区	16	0
その他	2	0
所在不明	8	0
合計	369人	3軒

凡例

- 一、同表は、芦峠寺宝泉坊の嘉永6年の檀那帳に基づき、同坊の江戸の檀那場における地域別の檀那数と宿数を示したものである。
- 一、区割りは、明治11年都区町村編成法の施行によって定まった15区の区分に基づいた。
- 一、浅草地区については、新吉原の40人を含む。
- 一、その他地区の2人は上野国と大久保村に所在する。



写真1—① 芦峠寺吉祥坊の嘉永元年の江戸檀那帳〔檀那帳A〕（表紙）

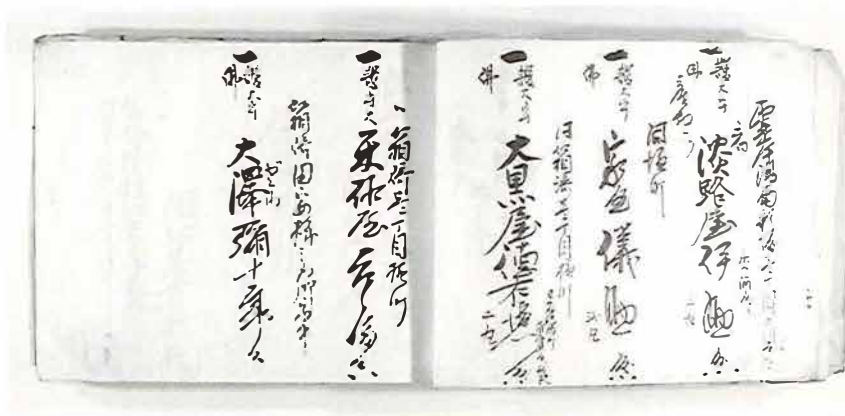


写真1—② 芦峯寺吉祥坊の嘉永元年の江戸檀那帳〔檀那帳A〕(部分)

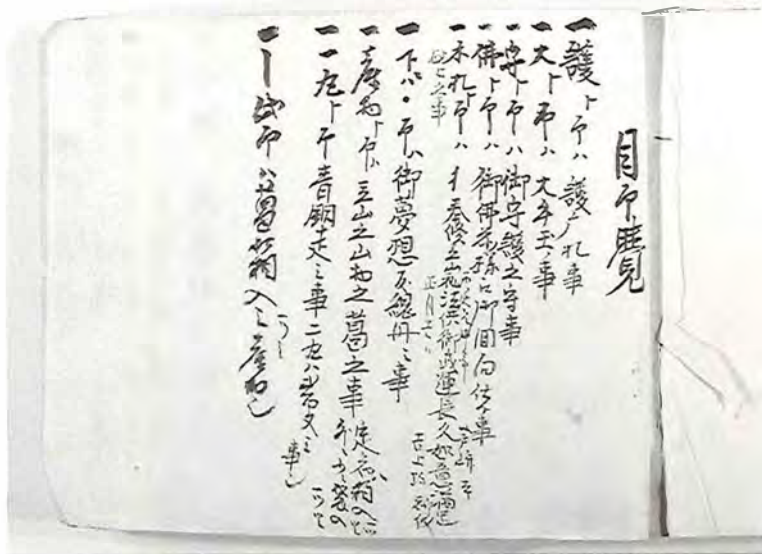


写真1—③ 芦峯寺吉祥坊の嘉永元年の江戸檀那帳〔檀那帳A〕  
(巻末に記載された同檀那帳の凡例)

第3表 芦舩寺吉祥坊の江戸における檀那場（嘉永元年）

掲数順	配札地	檀那名	人数	宿数	護摩柱	牛玉宝印	御守護	還向	秘法供	土産島	反魂丹	初地	土産葛箱	該当区
001	江戸表二番町	玉屋持四郎	1		0	0	0	0	1	1	3	0		麹町区
002	江戸表二番町	本間権助	1		1	0	1	1	1	1	3	0		麹町区
003	江戸表成徳横町	加藤隼兵衛	1		1	1	0	0	0	0	1	0		麹町区
004	市谷御門之内	横山久左衛門	1	1宿	0	0	0	0	1	1	3	0		麹町区
005	半蔵御門之前（前田大和守様御家中）	海野左衛門	1		1	0	0	1	0	0	2	0		麹町区
006	半蔵御門之前（前田大和守様御家中）屋敷	田嶋佳太郎	1		1	0	0	0	0	0	1	0		麹町区
007	半蔵御門之前（前田大和守様御家中）屋敷	大塚茶造	1		0	0	0	0	0	0	1	0		麹町区
008	飯田町二合半坂下	建記源左衛門	1	1宿	1	1	1	0	1	1	3	0		麹町区
009	飯田町中坂之上（飯田岩治郎様御屋敷之内）	加藤喜右衛門	1		1	0	0	1	0	0	2	0		麹町区
010	神田小川町（末子坂橋角屋敷）	白須甲斐守	1		1	1	1	0	0	0	2	0		神田区
011	神田小川町広小路	大岡勘辰	1		1	1	1	0	1	0	2	0		神田区
012	霧岸島本渡町1丁目	大村屋岩兵衛	1		1長	1	1	1	0	0	0	0		京橋区
013	霧岸島本渡町	荒江屋佐平治	1		1	1	1	1	0	0	2	0		京橋区
014	霧岸島本渡町1丁目	伊勢屋久治郎	1	1定宿	1	1	1	0	0	1	3	4		京橋区
015	霧岸島本渡町1丁目	伊勢屋久兵衛	1		1	1	1	0	0	0	2	2		京橋区
016	京橋	白石繁右衛門	1		1	1	1	0	0	0	3	3		京橋区
017	京橋	白石勝右衛門	1		1	1	1	0	0	0	2	2		京橋区
018	霧岸島本渡町1丁目	遠川屋吉兵衛	1		1	1	1	1	0	0	2	2		京橋区
019	霧岸島本渡町	浦賀屋六右衛門	1		1	1	1	1	0	0	3	3		京橋区
020	霧岸島本渡町	柏屋喜兵衛	1		1	1	1	0	0	0	3	2		京橋区
021	霧岸島本渡町	西ノ宮新七	1		1	1	0	0	0	0	2	1		京橋区
022	霧岸島本渡町（川島屋裏 舟戸）	相模屋丹治郎	1	1宿	1	1	1	1	0	1	3	2		京橋区
023	霧岸島本渡町2丁目	釘屋平吉	1		1	1	1	0	0	0	0	0		京橋区
024	霧岸島龜島町（紺屋どうりにて）	柏屋栄助	1		1	1	1	1	0	0	0	1		日本橋区
025	霧岸島（同裏にて）	大黒屋和助	1		1	1	0	0	0	0	2	1		日本橋区
026	霧岸島龜島町火見之下	遠川屋喜兵衛	1		1	1	1	1	0	1	3	3		京橋区
027	霧岸島長崎町	丁子屋与兵衛	1		1	1	0	1	0	0	0	0		京橋区
028	龜島町河岸通り	住吉屋久治郎	1		1	1	1	1	0	1	3	0		日本橋区
029	本八丁堀5丁目裏通り	松屋惣七	1		1	1	0	1	0	0	0	1		京橋区
030	本八丁堀1丁目	所屋藤助	1		1	1	1	1	0	0	0	2		京橋区
031	霧岸島南新堀1丁目大川端	淡精屋伊助	1	1宿	1	1	1	1	1	1	3	3		京橋区
032	霧岸島南新堀町	家屋袋助	1		1	1	1	1	0	0	3	2		京橋区
033	霧岸島箱崎1丁目横町	大黒屋徳右衛門	1		1	1	1	1	0	0	2	2		日本橋区
034	霧岸島箱崎1丁目横町	米碓屋吉兵衛	1		1	1	1	0	0	0	2	0		日本橋区
035	霧岸島箱崎町安様二而御家中	大澤彌十郎	1		1	1	1	1	0	0	0	0		日本橋区
036	松平相模守様御中屋敷 浜町御住居（宝隆院様）	宝隆院様	1		0	0	0	0	0	0	0	0		日本橋区
037	松平相模守様御中屋敷（岡部）	岡部善右衛門	1	1宿	1	1	1	0	0	1	3	2		日本橋区
038	松平相模守様御中屋敷（一色）	一色牧右衛門	1		1	1	1	0	0	0	2	1		日本橋区
039	松平相模守様御中屋敷（安富）	安富孫右衛門	1		1	1	0	0	0	0	2	1		日本橋区
040	松平相模守様御中屋敷（一色）	一色清治郎	1		1	1	0	0	0	0	2	1		日本橋区
041	松平相模守様御中屋敷（西岡）	西岡房吉	1		1	1	0	0	0	0	2	1		日本橋区
042	松平相模守様御中屋敷（吉岡）	吉岡善重郎	1		1	1	0	0	0	0	0	0		日本橋区
043	松平相模守様御中屋敷（武蔵）	無頼頑三郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		日本橋区
044	松平相模守様御中屋敷（小堀）	小堀半兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	0		日本橋区
045	松平相模守様御中屋敷（井上）	井上彌兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	0		日本橋区
046	松平相模守様御中屋敷（田村）	田村六蔵	1		0	0	0	1	0	0	2	0		日本橋区
047	松平相模守様御中屋敷（洞）	洞右馬治郎	1		0	0	0	1	0	0	2	0		日本橋区

新江 元／近世幕末期の江戸における山伏信仰



第3表—その2

掲載順	配札地	慣称名	人数	宿数	護摩札	牛玉宝印	御守護	追向	秘法供	土産葛	反魂丹	初穂	土産葛箱	該当区
048	松平相模守様御中屋敷 (地本)	地本佐兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	1		日本橋区
049	新橋竹川町	中村屋宗助	1		1	1	1	1	0	0	0	0		京橋区
050	新橋竹川町	栗屋直吉	1		1	0	1	1	0	0	0	0		京橋区
051	新橋竹川町	中深屋岩吉	1		1	1	0	1	0	0	0	0		京橋区
052	新橋出雲町	村上新兵衛	1		1	1	0	0	0	0	0	0		京橋区
053	尾張町2丁目角	瀬屋武右衛門	1		1	1	1	0	0	0	2	0		京橋区
054	京橋水谷町	中村屋伊十郎	1		1	1	1	0	0	0	0	0		京橋区
055	京橋白魚屋敷	和泉屋大右衛門	1		1	1	1	1	0	0	0	0		京橋区
056	山下御門前	河内屋清助	1		1	1	1	1	0	0	0	2		京橋区
057	京橋弥左衛門町	釘屋助八	1	1定宿	1	1	1	1	0	0	0	3	1	京橋区
058	京橋弥左衛門町 (精一堂)	香川福之助	1		1	1	1	1	0	0	3	2		京橋区
059	京橋弥左衛門町	萬屋	1		1	1	1	1	0	0	0	0		京橋区
060	京橋新香町	橋本甚右衛門	1		1	1	1	0	0	0	2	0		京橋区
061	京橋新香町	伊勢屋清右衛門	1	1宿	1	1	1	1	0	0	3	2		京橋区
062	京橋新香町	大嶋屋傳右衛門	1		1	1	1	1	0	0	3	2		京橋区
063	京橋弥左衛門町	福山外兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	2		京橋区
064	西紺屋町	玉屋大兵衛	1		1	1	1	0	0	0	2	0		京橋区
065	西紺屋町	布屋孝吉	1		1	1	1	0	0	0	0	2		京橋区
066	本材木町5丁目	遠川屋庄七	1		1	1	0	1	0	0	2	1		京橋区
067	京橋北紺屋町由ば屋裏 (舟戸)	堺屋久太郎	1		1	1	0	1	0	0	2	0		京橋区
068	京橋新香町	釘屋伊之助	1		1	1	1	0	0	0	2	0		京橋区
069	京橋新香町	下総屋半兵衛	1		1	1	1	1	0	0	3	2		京橋区
070	弓川横町	栄屋太助	1		1	1	1	1	0	0	3	2		京橋区
071	京橋新香町	松下和助	1		1	1	1	1	0	0	2	0		京橋区
072	京橋柳町 足袋屋裏二丁	屋主茂三郎	1		1	1	0	1	0	0	0	0		京橋区
073	南伝馬町2丁目天王横町	加賀屋忠七	1		1	1	1	1	0	0	0	0		京橋区
074	本石町1丁目	上田屋伊兵衛	1		1	1	1	1	0	0	3	2		日本橋区
075	本石町	近江屋久兵衛	1		1	1	1	1	0	0	3	2		日本橋区
076	神田雑子町桶屋の裏	大工鉄五郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		神田区
077	日本橋室町1丁目横町	上総屋藤蔵	1		1	1	0	0	0	0	2	1		日本橋区
078	神田菅川町2丁目	長谷川重右衛門	1		1	1	1	0	0	0	3	2		神田区
079	永楽町2丁目	家主新兵衛	1		1	1	0	0	0	0	2	1		神田区
080	神田松下町2丁目	伊勢屋庄兵衛	1		1	1	0	0	0	0	2	1		神田区
081	三河町1丁目	杉山五兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	1		神田区
082	永楽町2丁目	岡田屋成兵衛	1		0	0	0	0	0	0	2	2		神田区
083	神田上白糸町下駄新屋	奥州屋兵右衛門	1		1	1	1	0	0	0	3	2		神田区
084	板橋加川様下屋敷門外	玉川喜太郎	1		1長	1	1	1	0	0	0	0		住所未詳
085	根津惣門之内	坂井屋高太郎	1		1長	1	1	1	0	0	0	0		本郷区
086	大根岸の橋の岸	三河屋又吉	1		1	1	0	1	0	0	2	1		京橋区
087	大根岸の橋の岸	林花堂安五郎	1		1代表	1	0	0	0	0	0	0		京橋区
088	北紺屋町	長嶋屋伸右衛門	1		1	1	0	0	0	0	1	1		京橋区
089	大根岸の橋の岸	伊勢屋外之助	1		1	1	0	0	0	0	2	1		京橋区
090	五郎兵衛町	伊勢屋外之助	1		1	1	0	0	0	0	2	1		京橋区
091	桶町1丁目	左官宗助	1		1	1	0	0	0	0	2	1		京橋区
092	京橋堂町	大坂屋勘兵衛	1		1	1	0	0	0	0	2	0		京橋区
093	日本橋良殿町傳新道	伊勢屋安五郎	1		1	1	0	0	0	0	2	0		京橋区
094	日本橋方町中通り	大坂屋出太郎	1		1	1	0	0	0	0	2	0		日本橋区
		輪屋立常	1宿		1	1	0	0	0	0	3	2		日本橋区



第3表—その3

掲載順	配礼地	檀那名	人数	宿数	護摩札	牛玉宝印	御守護	廻向	陀法供	土産物	反魂丹	初穂	土産葛箱	該当区
095	日本橋方町	飛ノ新治郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		日本橋区
096	日本橋本舟町 家主成助店	高仁屋仁兵衛	1		1	1	1	1	0	0	3	0		日本橋区
097	本村木町2丁目	和泉屋新兵衛	1		1	1	0	1	0	0	3	1		日本橋区
098	本村木町2丁目	和泉屋三七衛門	1		1	1	0	0	0	0	2	1		日本橋区
099	中橋酒松川町	め利屋巻七	1		1	1	0	0	0	0	2	1		京橋区
100	京橋具足町	銅子屋文治郎	1	1宿	1	1	1	1	0	0	3	1		京橋区
101	本八丁堀5丁目	嶋屋長吉	1		1	1	0	1	0	0	2	0		京橋区
102	本八丁堀	木屋三治郎	1		1長	1	1	1	0	0	0	2		京橋区
103	本八丁堀永島町	伊勢屋平吉	1		1	1	1	1	0	0	3	2		京橋区
104	鎌砲州舟松川	伊勢屋長吉	1		1	1	1	1	0	0	3	2		京橋区
105	本多下総守様御上屋敷(南八丁堀1丁目)	関研治	1		1	1	0	0	0	0	2	1		京橋区
106	本多下総守様御上屋敷(南八丁堀1丁目)	平尾達吉	1		1	1	0	1	0	0	3	1		京橋区
107	南八丁堀5丁目	嶋屋文吉	1		1長	1	1	1	0	0	2	0		京橋区
108	木挽5丁目(千石様御屋敷之内)	高濱金兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	1		京橋区
109	京橋瀧山町	山崎屋久四郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		京橋区
110	住所未掲載	大石忠右衛門	1		0	0	0	0	0	0	2	0		住所未詳
111	築地御筋前(稲葉兵部少輔御屋敷)	田中八十八	1		1	1	0	1	0	0	2	1		京橋区
112	木挽町5丁目	遠州屋徳三郎	1		1	1	1	0	0	0	3	2		京橋区
113	尾張町1丁目	平松屋藤助	1		1	1	1	0	0	1	3	0		京橋区
114	尾張町新屋	橋屋市兵衛	1		0	0	0	1	0	1	3	0		京橋区
115	銀座3丁目	日野屋源助	1		1	1	1	0	0	0	3	1		京橋区
116	元数寄屋町	家根屋市兵衛	1		1	1	1	0	0	0	3	2		京橋区
117	山丁町	丸屋新六	1		1	1	0	0	0	0	1	0.5半		京橋区
118	綱町1丁目	銅子屋左衛門	1		1	1	1	0	0	0	1	2		芝区
119	芝字田川町	米屋七右衛門	1		1	1	1	1	0	0	0	0		芝区
120	銀座4丁目兼屋二	柴文堂庄之助	1		1	1	1	1	0	0	0	0		京橋区
121	鍛冶橋御門之内大名小路(松平相模守様御上屋敷)(野々村)	野々村彦三郎	1	1宿	1	1	1	1	0	0	3	2		麹町区
122	松平相模守様御上屋敷(唯)	唯清三郎	1		1	1	1	1	0	0	3	1		麹町区
123	松平相模守様御上屋敷(村尾)	村尾幸右衛門	1		1	1	0	1	0	0	2	1		麹町区
124	松平相模守様御上屋敷(櫻井)	櫻井宗俊	1		1	1	0	0	0	0	2	1		麹町区
125	松平相模守様御上屋敷(村上)	村上喜蔵	1		1	1	0	1	0	0	2	1		麹町区
126	松平相模守様御上屋敷(聴村)	聴村忠兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	1		麹町区
127	松平相模守様御上屋敷(野崎)	野崎伊三郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		麹町区
128	松平相模守様御上屋敷(山根)	山根兵右衛門	1		1	1	0	0	0	0	3	1		麹町区
129	松平相模守様御上屋敷(小谷)	小谷周治郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		麹町区
130	松平相模守様御上屋敷(吉岡)	吉岡謙右衛門	1		1	1	0	1	0	0	2	1		麹町区
131	松平相模守様御上屋敷(橋本)	橋本吉右衛門	1		1	1	0	1	0	0	0	0		麹町区
132	松平相模守様御上屋敷(小林)	小林國盛	1		1	1	0	0	0	0	0	0		麹町区
133	松平相模守様御上屋敷(藤田)	藤田熊治郎	1		1	1	0	0	0	0	0	0		麹町区
134	松平相模守様御上屋敷(長谷川)	長谷川文之助	1		1	1	0	0	0	0	0	0		麹町区
135	松平相模守様御上屋敷(井田)	井田伊三郎	1		1	1	0	0	0	0	2	0		麹町区
136	本郷森川加州様御前本多美濃守様中屋敷内(浅井)	浅井助四郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		本郷区
137	大名小路本多美濃守様御上屋敷内(尾崎)	尾崎六三郎	1		1	1	0	1	0	0	2	2		麹町区
138	本多美濃守様御上屋敷内(浅見)	浅見清治	1		0	0	0	0	0	0	2	0		麹町区
139	本多美濃守様御上屋敷内(仲益)	仲益五郎	1		1	1	0	1	0	0	0	0		麹町区
140	麹町1丁目(火消屋敷之内)	竹内安助	1		1	1	0	1	0	0	0	0		麹町区

新江 元ノ近世幕末期の江戸における立山信仰

掲載順	屋敷地	権名	人数	宿数	護摩柱	牛床宝印	御守護	廻向	税法供	土産葛	反魂丹	初穂	土産葛箱	該当区
141	鶴町1丁目(火消屋敷之内)	大塚弥十郎	1		1	1	0	1	0	0	0	0		鶴町区
142	鶴町単町	高須喜三郎	1		1	1	1	1	0	0	0	0		鶴町区
143	山本町 家主立具屋代治郎店二て	尾張屋金蔵	1		1	1	0	0	0	0	0	1		鶴町区
144	鶴町5丁目 家主清兵衛店二て	家根屋由兵衛	1		0	0	0	0	0	0	0	1		鶴町区
145	住所未詳	鏡屋久治郎	1		0	0	1	0	0	0	2	2		住所未詳
146	住所未詳	升屋久右衛門	1		1	1	1	0	0	0	3	2		住所未詳
147	山本町	龍屋市兵衛	1		1	1	1	1	0	0	2	1		鶴町区
148	平河町2丁目	山田朝右衛門	1		1	1	1	1	0	0	2	2		鶴町区
149	鶴町平河天神地内	上川屋留五郎	1	1宿	1	1	1	0	0	0	3	2		鶴町区
150	平河天神地内	浅野新五郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		鶴町区
151	平河町3丁目	佐官平右衛門	1		1	1	1	1	0	0	3	2		鶴町区
152	平河天神裏門前	山崎屋長七	1		1	1	1	1	0	0	2	3		鶴町区
153	平河天神裏門前	三河屋喜平治	1		1	0	1	1	0	0	2	2		鶴町区
154	平河町	井高屋常八	1		1	1	0	1	0	0	2	1		鶴町区
155	平河天神地内	椛屋喜兵衛	1		1	1	0	1	0	0	0	0		鶴町区
156	平河天神地内	紀之国屋庄兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	1		鶴町区
157	平河天神地内	相模屋佐助	1		1	0	1	0	0	0	2	1		鶴町区
158	平河町3丁目	石屋彌兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	2		鶴町区
159	平河天神裏門前	福田屋徳治郎	1	1宿	1	1	1	1	0	0	0	1		鶴町区
160	鶴町材木町	生嶋屋孫三郎	1		1	1	1	1	1	0	3	2		鶴町区
161	鶴町山王様裏門之内入	伊勢屋清右衛門	1		1	1	0	0	0	0	0	2		鶴町区
162	鶴町	志賀屋卯兵衛	1		1	1	0	0	0	0	0	1		鶴町区
163	鶴町平河天神下	三河屋忠七	1		1	1	1	0	0	0	0	0	1	鶴町区
164	四谷坂町尾州様長屋下	坪内屋半助	1		1	1	1	0	0	0	0	0		四谷区
165	平河町2丁目	武蔵屋藤吉	1		1	1	0	0	0	0	0	0		鶴町区
166	鶴町9丁目 家主平七店二而	田邊豊蔵	1		1	1	0	0	0	0	0	0		鶴町区
167	鶴町8丁目 家主清八店三而	肴屋喜三郎	1		1	1	0	0	0	0	2	1		鶴町区
168	鶴町9丁目 家主仁兵衛店三而	大工鉄五郎	1		1	1	0	1	0	0	0	1		鶴町区
169	鶴町9丁目	塙屋伊兵衛	1		1	1	1	0	0	0	0	2		鶴町区
170	鶴町8丁目	三河屋参右衛門	1		1	1	1	1	0	1	3	2		鶴町区
171	鶴町5丁目	家主平七	1		1	1	0	0	0	0	2	0		鶴町区
172	鶴町7丁目(亀沢与申軒屋横町)	左官齊蔵	1		1	1	0	1	0	0	2	1		鶴町区
173	鶴町10丁目	伊勢屋伊兵衛	1		1	1	0	0	0	0	3	2		鶴町区
174	鶴町13丁目	三河屋治右衛門	1		1	1	0	1	0	0	2	1		鶴町区
175	山本町 家主立具屋大治郎店三而	加納屋守七	1		1	1	0	0	0	0	0	0		鶴町区
176	四谷中殿町(紀州様御家中)	三輪源十郎	1		1	1	1	0	0	0	3	2		四谷区
177	伝馬町2丁目	米屋文治郎	1		1	1	1	1	0	0	3	2		四谷区
178	四谷大木戸大番町	向山駒治郎	1		1	1	0	0	0	0	2	1		四谷区
179	四谷竈町	越後屋仁兵衛	1		1	1	1	1	0	0	0	0		四谷区
180	妻坂川邊寺前(紀州様蔵屋敷也)	辻本喜三郎	1		0	0	0	0	0	0	0	0		四谷区
181	鶴町9丁目	家主勝三郎	1		1	1	0	0	0	0	2	1		鶴町区
182	鶴町10丁目(尾張彌御家中)	渡辺吉右衛門	1		1	1	0	1	0	1	3	0		鶴町区
183	鶴町10丁目(尾州殿御家中)	長谷川藤太郎	1		0	0	0	0	0	0	2	0		鶴町区
184	鶴町10丁目(尾州殿御家中)	松林鉄之助	1	1宿	0	0	0	0	0	0	2	0		鶴町区
185	鶴町10丁目(尾州殿屋敷)	宮木安太郎	1		0	0	0	0	0	0	2	0		鶴町区
186	鶴町10丁目(尾州殿屋敷)	石黒善治	1		0	0	0	0	0	0	2	0		鶴町区
187	鶴町10丁目(尾州殿屋敷)	加藤喜十郎	1		0	0	0	0	0	0	0	0		鶴町区



第3表—その5

掲載順	配札地	積込名	人数	宿数	護摩札	牛玉宝印	御守護	廻向	位法供	土産	反魂丹	初穂	土産葛箱	該当区
188	鶴町10丁目(尾川殿屋敷)	加藤太治郎	1		0	0	0	0	0	0	0	0		鶴町区
189	鶴町10丁目(尾川殿屋敷)	中村信藏	1		1	1	1	1	0	0	0	0		鶴町区
190	鶴町10丁目(尾川殿屋敷)	波多野百太郎	1		1	1	1	1	0	0	0	0		鶴町区
191	鶴町9丁目	家上平七	1		1	1	0	0	0	0	0	1		鶴町区
192	鶴町9丁目 家主仁兵衛店ニテ	中村屋龜吉	1		1	1	0	0	0	0	2	1		鶴町区
193	鶴町10丁目	三河屋勘助	1		0	0	0	0	0	0	0	0		鶴町区
194	四谷伝馬町1丁目	土田源三郎	1		0	0	0	0	0	0	0	0		四谷区
195	鶴町11丁目横町	三河屋治郎八	1		0	0	0	0	0	0	0	0		鶴町区
196	平河30丁目	大島屋伊助	1		1	1	1	1	0	0	0	0		鶴町区
197	平河天神表門之内	杉田屋市兵衛	1		1	1	1	1	0	0	2	2		鶴町区
198	四谷船坂横町	荒井蔵治郎	1		1	1	1	1	0	0	2	2		四谷区
199	四谷坂町3丁目大木戸	伊勢屋武右衛門	1		1	0	1	1	0	0	2	2		四谷区
200	四谷仲町鉄砲坂上	田地栄清	1		1	1	1	1	0	0	2	2		四谷区
201	牛込神楽坂中程	国領正太郎	1		1	1	1	0	0	1	3	2		牛込区
202	牛込上白銀町(水戸中山様向)	平岡三之丞	1		1	1	1	0	0	0	3	2		牛込区
203	市ヶ谷小日向(前田権佐内様御家事)	矢吹善一郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		小石川区
204	小石川柳町伝通院裏門前	柳十三郎	1	1宿	1	1	0	1	0	0	2	1		小石川区
205	小石川柳町	柳峯三郎	1		0	1	0	1	1	0	0	0.5半		小石川区
206	小石川柳町	松井庄九良	1		0	1	0	1	0	0	0	0.5半		小石川区
207	小石川柳町	山崎新藏	1		0	1	0	1	1	0	1	0.5半		小石川区
208	伝通院表門前通り仲町	相模屋新七	1		1	1	1	0	0	0	3	2		小石川区
209	小石川極楽行もんころ坂	大工勘治郎	1		0	1	0	0	1	0	0	1		小石川区
210	本郷草谷町角屋敷	内藤十良兵衛	1	1宿	1	1	1	0	1	0	3	0		本郷区
211	本郷草谷町角屋敷	松坂屋政治郎	1		1	1	0	0	0	0	2	1		本郷区
212	下谷光(廣)徳寺前横町 前田様屋敷人	泉野隆圓	1		1	1	1	0	0	0	3	2		下谷区
213	本多美濃守様 本郷森川加川様表御門前通り	本多美濃守	1		1	1	1	0	0	1	3	0		本郷区
214	(本多美濃守様)御家中	仲岳五郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		本郷区
215	(本多美濃守様)御家中	多摩屋貞實	1		1	1	0	1	0	0	2	1		本郷区
216	本多美濃守様屋敷	大江鉄太郎	1		1	1	0	1	0	0	2	0		本郷区
217	本多美濃守様屋敷	保田幸助	1		1	1	0	1	0	0	0	0		本郷区
218	下谷仲町徒町12番	渡辺正之助	1		1	1	0	1	0	0	0	1		下谷区
219	浅草門跡前	了子屋佐右衛門	1		1	1	0	0	0	0	1	1		浅草区
220	観音様地内実相院の内(奥ニテ)	松菜屋佐助	1	1宿	1	1	1	1	0	0	2	2		浅草区
221	山谷町	柳原卯八	1		1	1	1	1	0	0	3	2		浅草区
222	浅草材木町川邊通り	越後屋甚兵衛	1		1	1	1	0	0	0	3	2		浅草区
223	浅草駒形町川岸	大和屋清右衛門	1		1	1	0	0	0	0	2	1		浅草区
224	浅草御蔵前大代地横町	伊勢屋仙藏	1		1	1	0	1	0	0	2	1		浅草区
225	浅草左衛門川岸	伊勢屋儀兵衛	1		1	1	1	1	0	0	3	2		浅草区
226	浅草天神様前(本多美濃守様御中屋敷)	正村為五郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		浅草区
227	浅草天神様前(本多美濃守様御中屋敷)	井上四郎兵衛	1		1	1	0	1	0	0	0	0		浅草区
228	向国大川端(椎木松浦大和守様内)	佐藤喜三郎	1		1	0	0	0	0	0	2	1		本所区
229	本所南割下水津屋様 東御門前通り東江半丁行	猪子左太夫	1		1	1	1	0	0	0	3	2		本所区
230	本所石原弁天小路角屋敷	江川太助	1		1	1	1	1	0	0	3	2		本所区
231	深川六間堀元町	三河屋久右衛門	1		1	1	0	0	0	0	3	2		深川区
232	雲岸島浜町中屋敷内 永井記前守様御下屋敷	角野謙三郎	1		1	1	0	0	0	0	1	0		日本橋区
233	深川海辺大工町	佐野屋治郎右衛門	1		1	1	1	1	0	0	3	0		深川区
234	本所林町2丁目	江嶋屋弥吉	1		1	1	1	1	0	0	3	0		本所区

新江 元ノ近世幕末期の江戸における立山信仰

掲載順	取札地	権原名	人数	宿数	護摩札	牛玉宝印	御守護	廻向	税法供	土産葛	反魂丹	初穂	土産葛箱	該当区
235	深川六間堀町	江嶋屋平八	1		1	1	1	1	0	0	2	0		深川区
236	深川三十三間堂町	岡本屋屋吉			1	1	1	1	0	0	3	2		深川区
237	駿河台鈴木町	小尾直治郎	1	1宿	1	1	1	1	0	1	2	4		神田区
238	芝僧上寺御成徳門前(柳生(但馬守様之内))	澤田順吾	1		0	0	0	0	0	0	0	0		芝区
239	芝僧上寺御成徳門前(柳生(但馬守様之内))	柳生銀之助	1		0	0	0	0	0	0	0	0		芝区
240	芝僧上寺御成徳門前(柳生(但馬守様之内))	永野為吉	1		0	0	0	0	0	0	0	0		芝区
241	芝僧上寺御成徳門前(柳生(但馬守様之内))	梅村新治郎	1		0	0	0	0	0	0	0	0		芝区
242	芝堂下三才小路	松野傳十郎	1		1	1	0	0	0	0	2	1		芝区
243	芝口3丁目ひかり町通り	黒川岩治郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		芝区
244	麻布長坂善福寺門前	井筒屋与兵衛	1		1	1	0	0	0	0	2	1		麻生区
245	大門通り伝馬町通池町	鉄屋老助	1		1	1	1	0	0	0	3	2		神田区
246	大門通り伝馬町通池町	美濃屋権兵衛	1		1	1	1	0	0	0	3	2		神田区
247	大門通り伝馬町通池町角	丸成屋九兵衛	1		1	1	1	0	0	0	3	2		神田区
248	大門通り伝馬町通池町	榎井屋作兵衛	1		1	1	1	1	0	0	3	2		神田区
249	亀井町	上総屋重兵衛	1		1	1	0	1	0	0	3	1		神田区
250	弁慶橋岩本町	絹子屋狼治郎	1		0	0	0	1	0	0	0	2		神田区
251	新宿千駄ヶ谷町(戸田山城守様之御下屋敷)	福井口助助	1		1	1	0	0	1	0	2	1		南豊島郡
252	目黒行人坂上(森伊豆守様御屋敷)	荒木作右衛門	1		1	1	0	1	0	0	2	1		荏原郡
253	目黒行人坂上(森伊豆守様御屋敷)	川副與	1		1	1	0	1	0	0	2	0		荏原郡
254	目黒行人坂上(森伊豆守様御屋敷之内)	香山源太	1		1	1	0	1	0	0	2	0		荏原郡
255	目黒行人坂上(森伊豆守様御屋敷之内)	岡本久五兵衛	1		1	1	0	1	0	0	0	0		荏原郡
256	麴町4丁目	越前屋六兵衛	1		1	1	1	1	0	0	2	3		麴町区
257	麴町善黒寺谷町	石川信三郎	1		1	1	1	1	0	0	2	2		麴町区
258	四谷北伊賀町稲荷新道	藤野平吉	1		1	1	0	1	0	0	0	0		四谷区
259	市谷本村長屋下	大鷹伊三郎	1		1	1	1	1	0	0	2	2		牛込区
260	大久保上地	観音庵	1		1	1	1	1	0	0	0	0		南豊島郡
261	半次渡木町(栞町)七軒寺町弁天町	弁天庵	1		1	1	1	1	0	0	0	0		南豊島郡
262	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	高橋屋彌助	1	1定宿	0	1	0	0	0	0	3	0		南豊島郡
263	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	辰村屋清治郎	1		1	1	0	1	0	0	2	0		南豊島郡
264	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	辰村屋勝太郎	1		1	1	0	1	0	0	3	0		南豊島郡
265	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	相模屋宇八	1		1	1	0	1	0	0	2	0		南豊島郡
266	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	近江屋孫兵衛	1		1	1	1	1	0	0	2	4		南豊島郡
267	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	吉野屋由兵衛	1		1	1	0	0	0	0	2	1		南豊島郡
268	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	美濃路屋仙太郎	1		1	1	1	1	0	0	3	0		南豊島郡
269	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	山本屋龜治郎	1		1	1	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
270	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	甲州屋金助	1		1	1	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
271	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	祭屋三治郎	1		1	1	1	1	0	0	0	0		南豊島郡
272	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	小間物屋弥兵衛	1		1	1	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
273	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	空屋春吉	1		1	1	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
274	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	日出屋平助	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
275	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	武蔵屋方吉	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
276	四谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	伊勢屋豊治郎	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
277	四ツ谷内藤新宿(御新精寿命講中 上町)	山口屋又蔵	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
278	三光院横町	藤屋於口乃	1		1	1	0	0	0	0	0	1		牛込区
279	三光院横町	丸屋残五郎	1		1	1	0	0	0	0	0	1		牛込区
280	仲町	三田屋与兵衛	1		1	1	1	1	0	0	0	1		南豊島郡
281	仲町	彦屋徳右衛門	1		1	1	1	0	0	0	0	2		南豊島郡



第3表—その7

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	護摩札	牛玉宝印	御守護	追向	秘法供	土産葛	反魂丹	初穂	土産葛箱	該当区
282	仲町	宇佐美屋常治郎	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
283	仲町	伊勢屋金蔵	1		1	1	1	0	0	0	0	2		南豊島郡
284	下町	沼屋松之助	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
285	下町	大野屋清助	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
286	下町	若狭屋太兵衛	1		1	1	0	1	0	0	2	0		南豊島郡
287	下町	三河屋七郎右衛門	1		1	1	1	1	0	1	0	0		南豊島郡
288	下町	玉川佐吉	1		1	1	0	1	0	0	2	0		南豊島郡
289	下町	海老屋住蔵	1		1	1	0	1	0	0	0	1		南豊島郡
290	下町	海老屋内於多郎	1		1	1	0	1	0	0	0	1		南豊島郡
291	下町	橋屋浪八	1		1	1	0	1	0	0	2	1		南豊島郡
292	下町	大田屋勘治郎	1		1	1	0	1	0	0	2	1		南豊島郡
293	下町	大塚屋於露	1		1	1	1	1	0	0	3	0		南豊島郡
294	下町	吉水屋伊右衛門	1		1	1	0	1	0	0	2	0		南豊島郡
295	下町	三河屋音吉	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
296	下町	家主久兵衛店ニて	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
297	下町	家主平蔵店ニて	1		0	0	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
298	下町	扇子屋半七	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
299	下町	福田屋おしも	1		1	1	0	1	0	0	0	1		南豊島郡
300	千駄ヶ谷村	素野屋梅助	1		1	1	0	1	0	0	3	0		南豊島郡
301	千駄ヶ谷村	素野屋幸右衛門	1		1	1	1	1	0	0	3	2		南豊島郡
302	大宗寺横町	相模屋卯兵衛	1		1	1	0	0	0	0	2	1		南豊島郡
303	上町	甲川屋佐助	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
304	新宿下町	加賀屋治兵衛	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
305	新宿仲町	家主忠兵衛	1		1	1	0	0	0	0	0	1		南豊島郡
306	下町	善蔵	1		1	1	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
307	下町	相模屋	1		0	0	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
308	五十人町	永野屋伊兵衛	1		0	0	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
309	成子仲町	山村屋徳兵衛	1		0	0	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
310	成子仲町	相模屋政右兵衛	1		0	0	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
311	成子木戸之きわ二横	岡林庵	1		0	0	0	0	0	0	0	0		南豊島郡
312	四谷新屋敷六間町	梅田多十郎	1		0	0	0	1	0	0	0	0		南豊島郡
			312	19	274	271	125	163	10	19	476	276	2	

凡 例

- 一、同表は、芦崎寺吉祥坊の嘉永元年の檀那帳「御祈禱檀那帳〔 〕申歳八月吉日」（芦崎寺雄山神社所蔵）に掲載された内容を解説し、それに基づき、配札地と檀那名、人数、宿数、頒布品、土産、該当区を整理し、掲載順に示したものである。
- 一、同表における区割りは、明治11年都区町付編成法の施行で定まった15区の区割りに基づくものである。
- 一、掲載番号は檀那帳のなかでの掲載順を示すが、本稿のなかでは第3表No□で表記する。

第4表 芦峯寺吉祥坊の江戸における地域別の檀那数・宿数・勸進状況(嘉永元年)

廻檀地区	人数	宿	牛玉宝印	護摩札	御守護の 御守	奉修立山 秘法供養	御仏前 廻向	土産 (立山の葛)	葛箱入りの 土産	御夢想 反塊丹	丸 (青銅10疋)
日本橋区	29	2	26	26	10	0	15	2	0	56	22
京橋区	69	6	67	68	44	0	42	6	1	118	75.5
神田区	16	1	14	14	9	0	7	2	0	37	25
芝区	8	0	4	4	2	0	2	0	0	8	4
麻生区	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1
赤坂区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麴町区	78	6	60	65	22	5	41	6	1	110	59
四谷区	11	0	8	9	7	0	6	0	0	14	11
牛込区	5	0	5	5	3	0	1	1	0	8	8
小石川区	7	1	7	3	1	4	4	0	0	8	6.5
本郷区	9	1	9	9	3	1	6	1	0	16	4
下谷区	2	0	2	2	1	0	1	0	0	3	3
浅草区	9	1	9	9	4	0	6	0	0	18	12
深川区	4	0	4	4	3	0	3	0	0	11	4
本所区	4	0	4	4	3	0	2	0	0	11	5
南豊島郡	52	1	45	44	11	0	21	1	0	43	33
荏原郡	4	0	4	4	0	0	4	0	0	6	1
住所未詳	4	0	2	3	2	0	2	0	0	7	4
合計	312人	19軒	271枚	274枚	125枚	10枚	163件	19袋	2筒	476筒	278丸

凡例 一、同表は、芦峯寺吉祥坊の嘉永元年の檀那帳に基づき、同坊の江戸の檀那場における地域別の檀那数・宿数・勸進状況を示したものである。

一、区割りは、明治11年都区町村編成法の施行によって定まった15区の区分に基づいた。



写真2 芦峯寺吉祥坊の江戸檀那帳〔檀那帳B〕(部分)

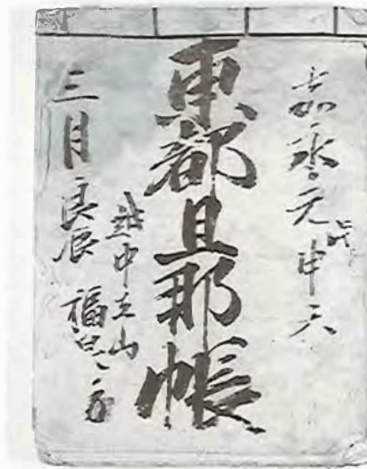


写真3—① 芦峯寺福泉坊の嘉永元年の東都檀那帳(表紙)

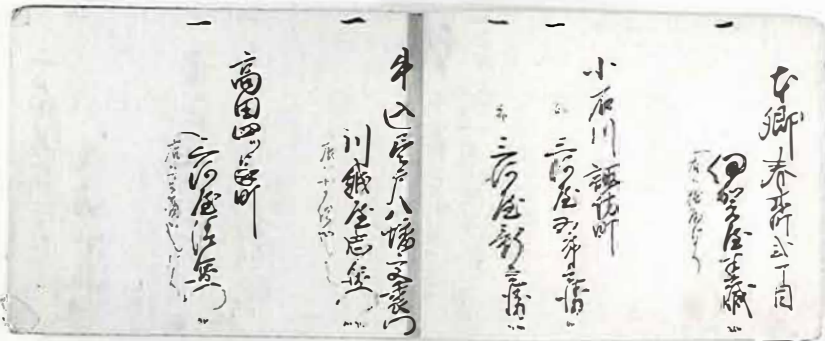


写真3—② 芦峯寺福泉坊の嘉永元年の東都檀那帳(部分)



第5表 芦峯寺福泉坊の江戸における檀那場（嘉永元年）

掲載順	配札地	檀那名	人数	宿数	職種	該当区
001	江戸下谷芳町2丁目	浜松屋忠兵衛	1	1		下谷区
002	湯島横町	塗木善兵衛	1		寿司屋	本郷区
003	本郷春木町2丁目	伊賀屋重蔵	1		麴屋	本郷区
004	小石川諏訪町	三河屋五郎兵衛	1			小石川区
005	小石川諏訪町	三河屋新兵衛	1			小石川区
006	牛込岩戸八幡高裏門	川越屋忠衛門	1		寿司屋	牛込区
007	高田四ツ家町	三河屋清衛門	1		豆腐屋	北豊島郡
008	高田馬場下町	本屋永助	1		字の師匠	牛込区
009	市ヶ谷田町2丁目下裏	武蔵屋角兵衛	1			牛込区
010	市ヶ谷田町1丁目	浜松屋庄太夫	1			牛込区
011	神田旅籠町2丁目	白川屋仁兵衛	1			神田区
012	小伝馬町上町丸多かし（河岸）	鍛冶屋清兵衛	1			京橋区
013	新吉原	丸屋熊蔵	1			浅草区
014	□□□（冊子の綴じ目に隠れ判読できず）	大和屋藤兵衛	1			住所未詳
015	深川扇橋ノ側	会津屋又五郎	1			深川区
016	深川永代橋本 相川町	三河屋萬吉	1		居酒屋	深川区
017	深川永代橋本 相川町	お記な屋源右衛門	1		葛麦屋	深川区
018	深川黒井町	貝屋平治郎	1			深川区
019	芝 阿た下(愛宕下)柵良川(桜川)ヨリ表 御門前 水野出羽守様御家中	毛利又右衛門	1			芝区
020	外神田別家	毛利□之助	1			神田区
021	芝 赤羽作橋側	三河屋平右衛門	1			芝区
022	芝 赤羽作橋側	家主甚助	1			芝区
023	芝 三田1丁目	萬屋長八郎	1			芝区
024	芝 田町4丁目	橋本屋五兵衛	1		荒物屋	芝区
025	南伝馬町3丁目	石見藤助	1		漆屋	京橋区
			25	1		

凡例 一、同表は、芦峯寺福泉坊の嘉永元年の檀那帳『東都旦那帳 越中立山福泉坊』（芦峯寺雄山神社所蔵）に掲載された内容を解説し、それに基づき、江戸における配札地と檀那名、人数、宿数、職種、該当区を整理し、掲載順に示したものである。

一、同表における区割りは、明治11年都区町村編成法の施行で定まった15区の区割りに基づくものである。

一、掲載番号は檀那帳のなかでの掲載順を示す。

## 2 芦峯寺各宿坊の檀那帳が示す江戸の立山信仰

### 2.1 江戸御府内及びその近郊の檀那場

#### 2.1.1 江戸御府内及びその近郊における芦峯寺各宿坊の檀那総数と分布状況

宝泉坊の嘉永6（1853）年の江戸の檀那帳に記載された檀那の総数は369人で、江戸の地区ごとの檀那数を多い順に示すと浅草区が60人、深川区が50人、日本橋区が42人、芝区が38人、京橋区と麴町区がそれぞれ30人、牛込区が24人、下谷区が17人、本所区が16人、小石川区と四谷区がそれぞれ12人、赤坂区が9人、神田区と本郷区がそれぞれ8人、麻生区が3人となっている。

同坊の檀那の分布傾向としては、新吉原関係者40人を含む浅草、後述するが松平和泉守との師檀関係から、その下屋敷がある深川、江戸の間屋商業の中心地である日本橋、御用達職人の拝領地がならぶ京橋、芝など、いわゆる下町に多く分布している。なお滞在中世話になる宿の総数は3軒で、芝区、四谷区、本郷区にそれぞれ1軒ずつである。

吉祥坊の江戸の檀那帳Aに記載された檀那の総数は312人で、さらに江戸の地区ごとの檀那数を多い順に示すと麴町区が78人、京橋区が69人、南豊島郡が52人、日本橋区が29人、神田区が16人、四谷区が11人、本郷区と浅草区がそれぞれ9人、芝区が8人、小石川区が7人、牛込区が5人、深川区・本所区・荏原郡がそれぞれ4人、下谷区が2人、麻生区が1人となっている。

同坊の檀那の分布傾向としては、江戸の間屋商業の中心地である日本橋や御用達職人の拝領地がならぶ京橋、山の手最大の商職集住地区の麴町に檀那が集中している。一方、宝泉坊の場合とは異なり浅草の檀那数が少ないが、これは吉祥坊が新吉原に出入りしていないからで、同関係者の檀那数は0人である。なお滞在中世話になる宿の総数は19軒で、京橋区と麴町区には6軒ずつと他区よりも多く分布し、これは同地区の檀那数の状況と合致する。一方、宿はその他日本橋区に2軒、神田区・小石川区・本郷区・浅草区・南豊島郡にそれぞれ1軒ずつ見られるが、芝区・麻生区・赤坂区・四谷区・牛込区・下谷区・深川区・本所区・荏原郡には1軒も見られない。

福泉坊の嘉永元（1848）年の東都檀那帳に記載された江戸の檀那場の檀那総数は25人で、さらに江戸の地区ごとの檀那数を多い順に示すと芝区が5人、深川区と牛込区がそれぞれ4人、本郷区と小石川区、神田区、京橋区がそれぞれ2人、浅草区と北豊島郡がそれぞれ1人、所在未詳が1人である。宿は下谷茅町2丁目の1軒だけである。

さて、檀那の分布状況を地区別に見た場合、上記のデータによると、一つの地区につ

きどんなに多くても数十名の単位であり、現実にはその地区の幾つかの町内に数名ずつ点在するといった状況である。

こうした状況に加え大都市江戸の非常に高い人口密度からすると、宝泉坊と吉祥坊が互いに廻檀配札領域とする日本橋や京橋のように、仮に何坊かで廻檀配札領域が交錯したとしても、地方の農村部などの場合とは異なり、宿坊間で檀那を奪い合うようなトラブルはまずは生じないであろう。こうした状況では、各宿坊間の檀那場に対する縄張りなど、ほとんど無意味のように感じられるが、それでも一応、地域によっては、大まかに縄張りが定められていたのではなかろうか。特にそれは宝泉坊が新吉原で独占的に廻檀配札活動を行っている状況からも推測されるのである。今後、こうした各宿坊に見られる檀那の分布傾向が確立するまでの経緯についても検討していく必要がある。

ところで、芦峯寺各宿坊衆徒が、長屋の住人を横のつながりで隣近所全てを根こそぎ檀那にするといったことは、一定期間において廻檀が可能な領域や檀那数などの物理的な点で、また江戸の庶民の民間信仰の受容意識の点でも不可能なことであった。

このような実態は、地方の農村部を檀那場とした宿坊家にみられる檀那の分布形態とは大きく異なる。地方の農村部では農作業などの日常生活を通して村民の共同体意識が強く、立山信仰など種々の民間信仰を受容する際も、一つの村が村全体として、或いは村内の大多数の者が受容する場合が多く見られるが（農村部を廻檀配札した宿坊家の檀那帳には、ある村について、檀那各自の名前を記さず、村全体、或いは村民大多数が檀那であるといった意味で、「村中」の記載が多く見かけられる<sup>16)</sup>、一方、江戸などの都市社会では人間関係が相対的に希薄で、むしろ共同体意識の枠を超え、数多くの民間信仰のなかからどれかを受容する際には、それを（例えばここではそれを立山信仰とするが）あくまでも個人的心願で受容した<sup>17)</sup>。これは個人的な現世利益の欲望などに基づく信仰の受容であり、すなわち、その人にとってまず信仰心を満たしてくれるかどうか、信仰するだけの価値があるか否かが問題で、それを認めた者だけが個々に信仰したのである。ただ若干の例外もみられ、特定の大名と師檀関係を結び、その大名の武家屋敷に出入りした場合は、その屋敷の比較的多くの家臣を含めて師檀関係を結んでいる場合が多い。これについては後述したい。

## 2.1.2 芦峯寺各宿坊と師檀関係を結ぶ檀那たちの身分階級・職種

各宿坊の檀那の階級には大都市江戸という独特な地域性が反映され、町人階級・武士階級・宗教者階級が見られる。町人階級の檀那には商人と職人が多く見られ、人足はほとんど見られない。特に宝泉坊については新吉原関係者の檀那が見られる。武士階級の

28



檀那には江戸に常住する諸藩の大名、及びその江戸屋敷（藩邸）に勤める江戸詰の家臣らが見られる。宗教者階級の檀那には江戸に寺院（浄土宗系）や庵を構える僧侶が見られる。一方、いずれの宿坊においても、穢多や非人身分の人々が檀那である例は見られない。

### 2.1.3 芦峯寺各宿坊の大名屋敷への出入り

宝泉坊の嘉永6（1853）年と慶応2（1866）年の江戸の檀那帳から、同坊衆徒泰音は廻檀配札活動を行った際、諸大名の屋敷も廻っていたことが確認できるが、その実態は次のとおりである。

稲葉長門守（第1表No.192～194・197・211）の上屋敷（小川町）と中屋敷（築地）、下屋敷（青山善光寺）、大沢相模守（第1表No.122）の屋敷（芝愛宕下神保小路）、落合能登守（第1表No.139）の屋敷（表六番町）、片桐石見守（第1表No.121）の屋敷（芝愛宕下）、京極備中守（第1表No.141）の上屋敷（山王永田馬場）、椎木松浦大和守（第1表No.104）の屋敷（本所大川端）、筒井肥前守（第1表No.168）の屋敷（表二番町）、細川能登守（第1表No.139）の屋敷（鉄砲洲）、本多下総守（第1表No.157）の上屋敷（南八丁堀）、本多豊前守（第1表No.171）の下屋敷（赤坂水川明神隣）、松平阿波守（第1表No.158～166・274）の中屋敷（八丁堀と芝三田）、松平和泉守（第1表No.279～311・No.330～333）の上屋敷（茅場町）と下屋敷（深川）、松平河内守（松平中務大輔、第1表No.128）の上屋敷（外桜田）、松平讃岐守（第1表No.272）の中屋敷（小石川御門内）、松平下総守（第1表No.167）の上屋敷（西御丸）、松平美濃守（第1表No.204～206）の下屋敷（虎之御門内）、三浦志摩守（第1表No.231～232）の上屋敷（虎之御門内）、水野出羽守（第1表No.233～234・243・245・273）の中屋敷（浜町）と下屋敷（蛸澁町）、森越中守（第1表No.116）の上屋敷（芝明神町）、紀州殿（第1表No.175・184、赤坂）、尾張殿（第1表No.145～147、市ヶ谷）。

この他、文久3（1863）年5月、泰音は霞ヶ関の松平安芸守の側室裏町より餞別として松竹梅小蓋半面を寄進されており<sup>182</sup>、同屋敷への出入りが窺われる。また、泰音の代には御本丸の大奥のなかにも師檀関係を結ぶものがみられ、「御本丸善珠院知誉妙通貞了大法尼」（大奥俗名リヲ、小石川麿近町在住）の位牌が残っている<sup>183</sup>。

一方同様に吉祥坊の江戸の檀那帳Aから、同坊衆徒泰順（生年未詳～慶応4年没）も御府内で廻檀配札活動を行った際、諸大名の屋敷も廻っていたことが確認できるが、その実態は次のとおりである。

稲葉長門守（第3表No.111）の中屋敷（築地）、戸田山城守（第3表No.251）の下屋

敷(新宿千駄ヶ谷)、永井肥前守(第3表No.232)の下屋敷(浜町)、前田大和守(第3表No.005~007)の屋敷(半蔵御門前)、本多下総守(第3表No.251・No.105~106)の上屋敷(南八丁堀)、本多美濃守(第3表No.137~139・No.213~217・No.226~227)の上屋敷(鍛冶橋御門内大名小路)と中屋敷(本郷)、椎木松浦大和守(第3表No.228)の屋敷(両国大川端)、松平相模守(第3表No.036~048・No.121~135)の上屋敷(鍛冶橋御門内大名小路)と中屋敷(浜町)、森伊豆守(第3表No.252~255)の上屋敷(目黒行人坂上)、柳生但馬守(第3表No.238~241)の上屋敷(芝僧上寺御成御門前)、紀州殿(第3表No.176・No.180、麴町)、尾張殿(第3表No.183~190、市ヶ谷)。この他、福泉坊の江戸の檀那のなかに一人だけ水野出羽守の家臣が見られる(第5表No.19)。

さて以上のように、宝泉坊泰音と吉祥坊泰順、福泉坊衆徒はともに諸大名の屋敷に入りしているが、その場合、大名本人が積極的に宿坊の外護者となり、本人とその家族、さらには上・中・下屋敷内の家臣らも含め広く師檀関係を結んでいる場合と、大名そのものとは無関係で、あくまでも屋敷内の家臣と宿坊とが個人的に師檀関係を結んでいる場合の二通りのパターンが見られる。

前者のパターンとして宝泉坊では京極備中守が本人のみ師檀関係を結んでおり、その他、落合能登守と片桐石見守、松平和泉守、松平河内守(松平中務大輔)、森越中守らが、本人とともに家臣らも若干名のものが師檀関係を結んでいる。

とりわけ積極的に宝泉坊を外護したのは松平和泉守と松平河内守である。両者とも妻や子供も含め家族ぐるみで師檀関係を結んでいる。このうち松平和泉守の場合は屋敷内の家臣にも影響を与え、屋敷内で比較的多くのものが(嘉永6年の江戸の檀那帳では家臣40名、慶応2年の江戸の檀那帳では家臣67名)宝泉坊と師檀関係を結んでいる。

なお宝泉坊と松平和泉守のより詳細な関係については、以前、拙稿『近世後期における芦峯寺系立山曼荼羅の制作過程についての一試論』<sup>30)</sup>のなかで、松平和泉守が安政5(1858)年に直筆の立山曼荼羅を宝泉坊に寄進した一件について論じたが、この松平和泉守は本名を松平乗全と称し、三河国西尾城主(6万石)である。乗全は大坂城代の役職を勤めた後、弘化2(1845)年2月15日から安政2(1855)年8月4日まで老中職を勤めた。その後、安政5(1858)年6月23日から再び老中職に就き、万延元(1860)年4月28日まで勤めている。宝泉坊は、毎年、和泉守の深川下屋敷や茅場町上屋敷を訪れ、和泉守自身に拝謁し神前仏前に礼拝し、御幣や護符、葛箱などを献上し、勅化帳を預け置いてきている。また屋敷で取り次いでくれる家臣には護符を、女中方には茶を献上している<sup>31)</sup>。

一方、松平河内守(松平中務大輔)は本名を松平親良と称し、豊後杵築城主(3万2

千石)である。ちなみに彼の妻は松平和泉守(松平乗全)の娘である。宝泉坊は、毎年、河内守の外桜田の屋敷を訪れ、河内守自身に拝謁し神前仏前に礼拝し護符、葛箱などを献上し勅化帳を預け置いてきている<sup>22)</sup>。

同じく前者のパターンとして、吉祥坊においては松平相模守と本多美濃守があげられる。両者とも本人をはじめ妻や子供も含め家族ぐるみで、さらには屋敷内の家臣にも影響を与え、屋敷内で若干名(松平相模守関係28名、本多美濃守関係11名)のものが吉祥坊と師檀関係を結んでいる。なお松平相模守は因幡国鳥取城主池田慶徳(32万5千石)のことであり、一方、本多美濃守は、三河国岡崎城主本多忠民(5万石)のことで、万延元(1860)年6月25日から文久2(1862)年3月15日までと、さらに元治元(1864)年10月13日から慶応元(1865)年12月19日まで、2度に渡って老中職を勤めている。

さて後者のパターンとして、宝泉坊においては稲葉長門守や大沢相模守、筒井肥前守、椎木松浦大和守、細川能登守、本多下総守、本多豊前守、松平阿波守、松平讃岐守、松平下総守、松平美濃守、三浦志摩守、水野出羽守、赤坂紀州御殿、市ヶ谷尾張御殿の家臣らが、それぞれ若干名(1名~12名)個人的に宝泉坊と師檀関係を結んでいる。

同じく後者のパターンとして吉祥坊においては、前田大和守や本多下総守、稲葉長門守、椎木松浦大和守、永井肥前守、柳生但馬守、戸田山城守、森伊豆守、四谷紀州御殿、麴町尾張御殿の家臣らが、それぞれ若干名(1名~9名)個人的に吉祥坊と師檀関係を結んでいる。

#### 2.1.4 言嶽寺各宿坊と師檀関係を結ぶ江戸の町人

宝泉坊の嘉永6(1853)年の江戸の檀那帳より同坊の檀那の職種を見みると、屋号をもつ商人や職人がきわめて多く、この檀那帳では173人が該当する。

また吉祥坊の江戸の檀那帳Aから同坊の檀那の職種を見みると、商人・職人のうち屋号を保有するものは175人で、その他、大工が3人である。店名等は第3表の檀那名を参照していただきたい。

なお、檀那帳Aにおける町人階級の檀那の職種には以下のものが見られる。

家主(第3表No.027・061・063・088・095・171・191)、名主(第3表No.273)、米屋及び米問屋(第3表No.018・028・102・103・163・244)、麴屋(第3表No.094・221)、肴屋及び肴問屋(第3表No.055・097・098)、八百屋(第3表No.174)、青物問屋(第3表No.086・089)、塩屋(第3表No.169・173)、砂糖屋(第3表No.164)、酒屋(第3表No.031・056・099・154・155・170・195・236・280・287)、菓子屋(第3表No.162・288)、煙草屋(第3表No.270)、煮染屋(第3表No.161)、茶屋(第3表No.030・269・



274・284・286・294・298・299・305・307)、料理屋(第3表No.077・177)、鰻屋(第3表No.283)、イカ足炙り(第3表No.026)、赤穂竹皮(第3表No.248)、旅籠屋(第3表No.263・266・268)、船宿(第3表No.019・022・067・223)、足袋屋(第3表No.020・053・088・117・199)、下駄屋(第3表No.083・225)、雪駄屋(第3表No.193・231)、小間物屋(第3表No.267・292)、金物屋(第3表No.233)、合羽諸品屋(第3表No.247)、筆屋・墨筆(第3表No.120・219)、本屋(第3表No.062)、玩具屋(第3表No.052・156・220)、御本丸御用達(第3表No.078)、呉服屋大名方出入り(第3表No.074・075)、仕立屋(第3表No.114・152)、古着屋(第3表No.196)、古道具屋(第3表No.165・235)、古具表具屋(第3表No.243)、材木屋(第3表No.066・080・160・211・222)、板屋(第3表No.234)、駕籠屋(第3表No.147・153)、番頭(第3表No.276・279・282・304)、大工(第3表No.265・302)樽屋弟子分(第3表No.285)、塗物屋(第3表No.113・291)、銅(あかがね)(第3表No.118)、紀州様の棺師(第3表No.259)、質屋(第3表No.055)、両替商・貸屋(第3表No.069・091・112・119・246・249・281)、損料屋(第3表No.293)、銭亀屋(第3表No.208)などである。

さらに福泉坊の嘉永元(1848)年の檀那帳によると、江戸御府内の25人の檀那のうち21人が屋号を保有し、その職種には寿司屋(第5表No.002・006)や麴屋(第5表No.003)、豆腐屋(第5表No.007)、字の師匠(第5表No.008)、鋳物屋(第5表No.016)、葛麦屋(第5表No.017)、荒物屋(第5表No.024)、漆屋(第5表No.025)などが見られる。その他、1人が家主(第5表No.022)である。

さて、各宿坊のうち宝泉坊だけが遊郭街の新吉原に出入りし、まずは仲之町の中松屋悦居(第1表No.346、中松屋善兵衛の子息)を仲介者として、田町2丁目家主九兵衛店の杵伊勢屋三四郎(第1表No.369)に新吉原での世話人役を依頼し、講組織を形成していた<sup>39)</sup>。嘉永6(1853)年の宝泉坊の江戸の檀那帳によると、新吉原講中では35人の各店経営者が、また同坊の慶応2(1866)年の江戸の檀那帳によると40人の各店経営者が檀那として掲載されている。

### 2.1.5 芦峠寺各宿坊と師檀関係を結ぶ江戸の宗教者

宝泉坊の嘉永6(1853)年の江戸の檀那帳より、同坊の檀那には北本所馬場町の即源寺庵住(仏母庵)(第1表No.201)や本所之先寺嶋の臥雲軒庵住(第1表No.202)、本所危井戸村の宝性庵庵住(第1表No.203)、牛込高田馬場下の来迎寺(浄土宗)現住忍静(第1表No.247)、牛込高田馬場下の誓閑寺(浄土宗)現住縁順(第1表No.248)、牛込高田馬場下の正覚寺現住良達(第1表No.249)らの宗教者が見られる。

また吉祥坊の江戸の檀那帳Aより、同坊の檀那には大久保上地の観音庵（第3表No.260）や牛込榎木町七軒寺町弁天町の弁天庵（第3表No.261）、成子木戸のきわ岡林庵（第3表No.311）の3名の宗教者が見られる。

なお宝泉坊の元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記によると、このなかで同坊が江戸滞在中に比較的何度も立ち寄っていたのが仏母庵で、例えば同2（1865）年の4月9日には仏母庵を訪れ足袋と御札を頒布しており、また同（1865）年4月24日には立山曼荼羅の絵解きに訪れている<sup>24)</sup>。さらに宝泉坊は同（1865）年5月19日に牛込の来迎寺を訪れ、同寺で立山曼荼羅の絵解きや、その具体的な内容は明らかではないが布橋供養なるものを行っている<sup>25)</sup>。この他、師檀関係は結んでいないが、元治2（1865）年4月晦日に芝僧上寺山内の大師寮へ参上し、御隠居大宣和尚や大栄和尚、興堂和尚、大師和尚らに先年から万事お世話をいただいた御礼として、土産ともに血脈や経帷子を献上している<sup>26)</sup>。

## 2.2 芦峯寺各宿坊の勧進活動の実態

### 2.2.1 勧進活動の実態を示す檀那帳と檀那廻日記

江戸を廻檀配札した各宿坊衆徒の勧進活動の実態について、廻檀期間中の日々の生活や勧進そのものの実態は宝泉坊の江戸の檀那帳や檀那廻日記から、また頒布品の種類や頒布数などについては、吉祥坊の江戸の檀那帳から詳細に窺うことができる。

すなわち、宝泉坊には前掲の嘉永6（1853）年の檀那帳をはじめ、元治2（1865）年の檀那廻日記『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』、慶応2（1866）年の檀那帳『東都檀那帳 越中立山寶泉坊興脈扣 慶應二年寅正月日』、慶応3（1867）年の檀那廻日記『檀波羅密 越中立山寶泉坊 慶應三卯星弥生（梵字）吉日』、明治元（1868）年の2冊の檀那廻日記『檀那廻日記 明治元戊辰歳冬（梵字）吉日 [欠損] 舎』と『檀那廻日記 越中立山寶泉 [以下欠損] 明治元戊辰歳仲冬（梵字）吉 [以下欠損]』が現存しており、同坊のこれらの檀那帳や檀那廻日記によると宝泉坊は衆徒泰音が弟子興脈を引き連れ<sup>27)</sup>、江戸では時折二人が別行動をとっていたことや、同坊の勧進収益は初穂料、血盆経の頒布、経帷子の頒布、完薬反魂丹の頒布、各所奉加、廻向料、別祈祷料、日月茶牌料、招講（各家に招かれ祈祷を行ったり立山曼荼羅の絵解きを行う。御絵伝資銭が入る。）などによってあげられていることが窺われる。

なお元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記によると、宝泉坊の同（1865）年の江戸滞在期間は2月30日（十条より江戸本郷に入る）から7月17日（板橋を出発）までの約4ヶ月半である。

一方、吉祥坊の江戸の檀那帳Aには各檀那名の下に頒布品が記号で記載されており、頒布品の種類や頒布数が具体的に窺われる。

## 2.2.2 勧進活動における収益方法

### a 物品の頒布による勧進活動

#### (1) 護符の頒布

護符の頒布については、宝泉坊の元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記によると、江戸御府内では檀那各家にくまなく頒布しているわけではなく、現地での世話人の檀那<sup>28)</sup>やそれに準ずる檀那、或いは廻檀中特に世話になった檀那、その他大名屋敷の大名やその取り次ぎを担ってくれた家臣及び女中方、有力寺院の関係者などに土産とともに御礼の品として献上していたようである。なお、同坊がその際に献上した護符の種類については「御札」とだけ記載されており具体的な種類は不明である。宝泉坊の慶応2（1866）年の江戸の檀那帳にも、檀那名の下に「守」と記されている例が若干見られ、おそらくこの印は前述のように護符の頒布か或いは献上を示しているものと推測される。

一方、江戸郊外の新宿講中には17軒分の護符を新宿久右衛門に預け置いて頒布させており<sup>29)</sup>、また新吉原講中にも枡伊勢屋三四郎を世話人として例年45軒分の大牛玉（牛玉宝印『立山之宝』の大）を頒布させていた<sup>30)</sup>。ただ廻檀期間中の護符の頒布総数については不明である。

宝泉坊のこうした実態に対して、吉祥坊においては護符は主要な頒布品であった。吉祥坊の江戸の檀那帳Aには檀那名の上に「護」、「大」、「守」、「佛」、「木札」、「産物」などの印が、また檀那名の下には「・」、「一丸」、「一」などの印が付けられているが、これらの記号の意味については「目印覚」として檀那帳の末尾に次のように凡例が記載され、さらに護符製作時に使用する紙の種類も記載されている。

#### 目印覚

- 一 護ト印ハ護摩札事
- 一 大ト印ハ大牛玉ノ事
- 一 守ト印ハ御守護之守事
- 一 佛ト印ハ御佛前様江御廻向仕候事
- 一 木札ト印ハ（梵字）奉修立山秘法供御武運長  
久如意満足祈攸 芦峠寺吉上坊 献上之事
- 一 下ニハ・印ハ御夢想反魂丹之事



- 一 産物ト印ハ立山之山物之葛之事  
定宿ハ箱入一ツツ外ニ少々袋入一ツツ
- 一 一丸ト印青銅十疋之事二丸ハ式百文之事也
- 一 | 此印ハ葛箱入之産物也

御札拵候覚

- 一 護摩札ハ中丸半紙にて供事
- 一 大牛玉ハ上八寸紙にて供事
- 一 守ハ上杉原紙にて供事
- 一 大札ハ杉原紙にて供事

さて檀那帳Aによると、吉祥坊衆徒が檀那に頒布した護符<sup>31)</sup>の種類は牛玉宝印、護摩供養札、御守護の御守、立山秘法供養札で、廻檀地区ごとの各護符の頒布枚数は第4表に示すとおりである。檀那場の各地区ごとの頒布数を合計すると牛玉宝印は271枚、護摩供養札は274枚（そのうち6枚は長日護摩供養の護符）、御守護の御守は125枚、立山秘法供養札は10枚で、さらにそれら全ての合計枚数は680枚である。ただ、檀那帳には各種護符の頒布価格が記されていないので、護符の頒布による収益は明らかでない。

なお、護摩供養とその護符を購入した檀那のうち大村屋岩兵衛（第3表No.012）、玉川喜太郎（第3表No.084）、坂井屋富三郎（第3表No.085）、林花堂安五郎（第3表No.087）、木屋三治郎（第3表No.102）、嶋屋文吉（第3表No.107）の6人は、通常の護摩供養の護符ではなく、長日護摩供養の護符「(梵字)立山長日護摩供開運出世子孫繁昌 叡 声嶺窟吉祥坊」を購入している。その他、松平相模守上屋敷の長谷川文之助（第3表No.134）は戊年（嘉永2年か、または文久2年）に13歳となり、寿命長久の祈禱を受けている。また本多美濃守上屋敷の浅見清治（第3表No.183）、四谷内藤新宿の高橋屋彌助（第3表No.262）、四谷内藤新宿の辰村屋勝太郎（第3表No.264）の3名は御嬭尊寿命札を購入している。

ところで、吉祥坊衆徒泰順は元治元（1864）年5月に、大名小路本多美濃守家中の小崎六三郎から血盆経の版木2枚（富山県〔立山博物館〕所蔵）を寄進されているが、檀那帳Aの内容を見ていく限り、血盆経の頒布に関する記載や、さらには経帷子の頒布に関する記載は全く見られない。後述するように、宝泉坊においては血盆経や血脈、経帷子などは勸進収益の中核をなす重要な物品であっただけに、同じく江戸を檀那場として廻檀配札活動を行っていた吉祥坊が、これらの物品を頒布しなかった理由については、

今後検討していく必要がある。

一方、福泉坊についても檀那帳の檀那名の上に「護摩札」、「木札」、「初」など目印で記載されており、護摩札や木札を頒布していたことが確認できる。ちなみに護摩札は江戸では頒布されていない。木札は3人の檀那に頒布されている。一方、檀那名の下にも「紀」、「阿」、「加」、「越」と目印が記載されているが、これらが具体的に何の頒布を示しているのかは不明である。ちなみに「紀」が記載された檀那は1名であり、また「加」が記載された檀那は23人であるが、そのうち7人に2個ずつ記載されており、合計30個記されている。これらの金額についても全く不明である。

### (2) 血盆経の頒布

宝泉坊の元治2(1865)年の江戸の檀那廻日記には巻末に血盆経料が記載され、それによると頒布件数は50件で、収入総額は6両2分2朱403文である。1件あたりの料金を見ていくと136文かその2倍の272文が圧倒的に多く、おそらく血盆経1点につき136文が基本料金だったと考えられる。それでもなかには654文や972文、412文などの金額も見られる。

一方、明治元(1868)年の同坊の江戸の檀那廻日記『檀那廻日記 越中立山寶泉〔以下欠損〕 明治元戊辰歳仲冬(梵字)吉〔以下欠損〕』の巻末にも血盆経料が記載され、それによると頒布件数は56件で収入総額は5両2分と銭10貫480文であった。なおそのうち3両1分は松平和泉守関連の檀那たちに頒布して得た収入である。この檀那廻日記においても、なかには544文や金100疋といった料金が見られるが、前述と同様に1件あたりの血盆経料は136文かその2倍の272文が圧倒的に多い。

### (3) 経帷子の頒布

宝泉坊の元治2(1865)年の江戸の檀那廻日記には巻末に「丑年経衣約速覚」が記載されている。それによると国許から186枚の経帷子を持参しており、檀那場での頒布状況は事前の予約分として72件で157枚を頒布し、その他、予約なしで頒布した経帷子は16件22枚で、これについては余り物として代金を徴収していない。結局、総数123件で179枚を頒布し、総額65両1分を得ている。なお同檀那廻日記には「来ル寅年帷子約速覚」も記載されており、72件で総数86枚の予約が入っている。

一方、宝泉坊の明治元(1868)年の江戸の檀那廻日記『檀那廻日記 明治元戊辰歳冬(梵字)吉日〔欠損〕舎』によると、同日記の巻末の覚から同坊が経帷子については77枚を頒布して30両2分の収入を得ていることが確認できる。

また、宝泉坊のもう1冊の明治元(1868)年の檀那廻日記『檀那廻日記 越中立山寶泉〔以下欠損〕 明治元戊辰歳仲冬(梵字)吉〔以下欠損〕』によると、「来年御帷衣

覚」として60件で76枚の予約が入っている。

以上の内容から、宝泉坊は例年おそらく80枚前後の経帷子を頒布し30両前後の収入を得ていたと推測される。元治2（1865）年の場合については、例年とは異なり、同年だけ何らかの理由で特別な勸進活動を行わねばならず、強いて注文をとりつけ頒布枚数を増やしたのであろう。

#### (4) 売薬反魂丹の頒布

宝泉坊は廻檀中、時折求められて反魂丹を頒布している。同坊の元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記によると、同坊は同年3月26日に江戸銀座4丁目人形屋久松宅に宿泊し、その際、布橋血脈代として300文、血盆経代として2朱、反魂丹代として300文を徴収している。

一方、吉祥坊においては、反魂丹は護符とともに収益が期待できる重要な頒布品であった。吉祥坊の檀那場の各地区ごとの御夢想反魂丹の頒布数は第4表に示すとおりである。

檀那帳には御夢想反魂丹の頒布について、一袋につき「・」の印で示されるが（ちなみに二袋だと「・・」）、各地区ごとの頒布数を合計すると476袋となる。総数312人の檀那のうち、御夢想反魂丹を購入したものは204人であり、檀那の約3分の2が反魂丹を購入したことになる。購入者については一人当たり2.3袋を購入したことになる。ただ檀那帳には御夢想反魂丹の頒布価格が記されていないので、それによる収入は明らかではない。そこで前掲の宝泉坊の檀那廻日記に記載の反魂丹代金300文を基本料金として換算すると、204軒で約15両程となる。

#### b 祈禱奉仕による勸進活動

##### (1) 廻向料・別祈禱料

宝泉坊の元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記には巻末に「別祈禱并廻向布施受納覚」が記載されている。それによると件数は66軒で27両1分1朱412文の収入を得ている。また慶応3（1867）年の江戸の檀那廻日記からは廻向料の総収入を窺うことができないが、件数は148件で1朱や2朱、100疋、100匁などの金額が見られる。さらに、明治元（1868）年には、同（1868）年の江戸の檀那廻日記『檀那廻日記 明治元戊辰歳冬（梵字）吉日〔欠損〕舎』の巻末の覚や、同（1868）年の別の一冊の檀那廻日記『檀那廻日記 越中立山寶泉〔以下欠損〕明治元戊辰歳仲冬（梵字）吉〔以下欠損〕』によると、112件で14両2分2貫400文と、他に松平和泉守に対する祈禱料5両と同氏からの拝領金7両を加え、合わせて26両2分2貫400文の収入を得ている。なおこの2冊の檀那廻日記に掲載された廻向料については、時には1朱であったり、2朱、青銅200文、100疋から500疋であったりと様々である。



一方、吉祥坊の場合については、江戸の檀那場の各地区ごとの仏前への廻向の件数は第4表に示すとおりである。各地区ごとの祈禱件数を合計すると163件となる。ただ、檀那帳Aには仏前廻向の料金が記載されていないので、それによる収入は明らかではない。なお仮にここでは廻向料を一律2朱と低く見積もって、163件で約20両程となる。

## (2) 日月茶牌料

日牌は1年間の毎朝の勤行時に必ず名前を呼び上げていくことで、月牌は祥月命日ごと1年に12回の勤行のときにそれを行うこと、茶牌はお参りに訪れたときだけそれを行うことである。

宝泉坊の元治2(1865)年の江戸の檀那廻日記によると、同坊衆徒は同(1865)年には日月茶牌料として14両3分3朱の収入を得ている。また明治元(1868)年には、同(1868)年の江戸の檀那廻日記『檀那廻日記 明治元戊辰歳冬(梵字)吉日〔欠損〕舎』の巻末の覚によると21両3分2朱の収益をあげている。なお、この檀那廻日記に記載された日月牌料については、時には月牌料が2両であったり、或いは月牌料1両と位牌の代金1両を合わせて2両であったり、世話人である永井太之丞(第1表No.278)に対しては10疋であったりと様々である。

これについて宝泉坊の慶応3(1867)年の江戸の檀那廻日記からより具体的な実例をあげると、例えば長沢屋藤七(芝田町2丁目)が月牌料として1分2朱を、松平和泉守様御奥老女梅尾が15両を、寺島圓藏(小石川御掃除組屋敷)が二人分の日牌料として2両を、小林金平<sup>32)</sup>(下谷中御徒町)が日牌料として1分を包んでいる。

また、日月牌に永代施餓鬼供養を付け足す場合も見られ、例えば伊勢屋三郎兵(牛込原町2丁目伊賀町入口足袋店)は月牌料に永代施餓鬼供養料を付けて10両を、上総屋久右衛門(千住小塚原)は月牌料として1両と永代施餓鬼供養料として2両の合わせて3両を包んでいる。

この他、九鬼長門守の屋敷内に居住する「者せ」は、日牌料と永代施餓鬼供養料としての10両と位牌の代金として1両2分の合わせて11両2分を包んでいる。ちなみに同女に宝泉坊を取り次いだのは世話人である永井太之丞の身内の善殊院である。九鬼長門守の屋敷では「者せ」の他に2名の者が5両と3両で日牌を依頼している。

## c 祠堂金の受納による勸進活動

### (1) 初穂料の受納

宝泉坊の慶応3(1867)年の江戸の檀那廻日記によると、同帳面に記載された初穂料の受納件数は209件である。1件あたりの徴収金額は1朱、2朱、300文、100疋、300銅などと様々だが、1朱を包む檀那が比較的多い。なお初穂料による収入総額は記されて

いないが、檀那各家の金額を合計すると16両1分2朱1700文4400疋4200銅となる。それゆえ、1軒あたり平均すると1.25朱8文21疋20銅を包んでいることになる。

一方、吉祥坊の江戸の檀那場の各地区ごとの初穂収入は前掲第4表に示すとおりである。檀那帳には一丸だと「一丸」の印で示されるが（ちなみに2丸だと「二丸」）、各地区ごとの収入を合計すると278丸（2780疋〔27800文は約7両〕）である。初穂料を寄進した檀那は312人中、183人である。寄進した檀那については平均1.5丸を寄進したことになる。収入の多い区域は当然ながら日本橋・京橋・麴町・南豊島郡などの檀那数の多い区域と合致する。

さらに、福泉坊も江戸の檀那場で2名の檀那から初穂料を受納しているが、それらの金額については檀那帳には全く記載されず不明である。

## (2) 各所奉加

宝泉坊は元治2（1865）年に限って、その目的は明らかではないが、極めて大がかりな奉加を行っている。

同坊の元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記の巻末には「奉賀等集高覚」として、大名や新吉原をはじめとする檀那たちからの奉加による収入を記載している。それによると、御本丸分で21両2分3朱と銀子24包、芸州様（松平安芸守）分で白銀1枚と8両2分2朱と銀子5包、三田有馬様（九鬼長門守）分で白銀5枚と18両1朱と銀子19包、紀州様（紀伊和歌山藩主）分で4両1分1朱と銀子1包と青銅208疋、尾州様（尾張藩主）分で7両3分2朱、加州様（加賀藩主）分で2両2分3朱と銀子2包と青銅48疋、永井太之丞様分で3両3分1朱と青銅150疋、川越大和守様分で1両3分と銀子2包と青銅112疋、讃州高松様分（松平讃岐守）で2両1分2朱、願岡邑村院様分で4両3朱と銀子1包を寄進されている。そして以上の総額は換金して87両2朱と白銀1枚、銀子3包、青銅112疋となる。

また、松平和泉守様分で9両2分3朱と他に無帯衣・大五條改白、松平河内守で11両1分1朱と他に簾衣・五條袈裟衣の2枚の寄進をうけ、この二人分を合わせて20両3分3衣となるが、さらに、新吉原別帳分で2両3分3朱、本帳分（一般の檀那各氏からの奉加）で201両3分1朱25文、その他、寄進者は記載されていない分で314両374文の寄進をうけている。

以上の全ての金額を合計すると、大名等の奉加による収入は626両2分2朱399文と白銀1枚及び衣3枚となる。

さてこうした一連の奉加のうち、松平和泉守や松平河内守のように大名自身と師檀関係を保っている場合は、宝泉坊自身が屋敷を訪れた際に直接奉加を求めているが<sup>33)</sup>、そ

の他の各大名家との仲介役を担っていたのが永井太之丞（本郷御弓町、第1表No.278）と芳善院（永井氏裏方）、そして芳善院とは、おそらくともに御本丸大奥に仕えて密接な関係にある善殊院（大奥俗名リヲ、同女の位牌の戒名は御本丸善殊院智誓妙通貞了大法尼）であった<sup>391</sup>。

元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記の4月4日の条には、「四月四日 永井太之助様江参殿。昨年別當勸化帳、芳善院様へ相願置候處、善殊院様等江御出シ之上、御本丸始、霞ヶ関藝州様、三田有馬様、紀州様より記帳被為下度候、別冊通りニ候。冥加至極之義ニ御座候。」と記載されている。

また、御本丸分については沢田屋仁兵衛（深川北六軒下ノ橋、第1表No.023）や深谷左源太（湯島靈雲寺前）らも関与していたようである<sup>391</sup>。さらに、宝泉坊の一連の檀那帳には檀那としては記載されておらず、その身分や住居は明らかではないが、願岡頼母と邑村院の二人が仲介者となって川越大和守の妻に勸化帳を出している<sup>391</sup>。

#### d 講による勸進活動

##### (1) 御絵伝（立山曼荼羅）招講

宝泉坊の元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記より、同坊衆徒が日頃の廻檀配札活動のなかで連日各地の檀那たちに招かれ講を催し、その際、立山曼荼羅を絵解きして勸進してたことが確認できる。

同檀那廻日記の日記そのものの部分から招講及び立山曼荼羅の絵解きに関する記事を見ていくと、3月13日に相模国高田村の赤間伊兵衛宅で（御曼荼羅散銭として520文を得ている）、3月26日に新宿久兵衛門宅で（御絵図ヲ懸けん）、3月26日に瀬田村利藏宅で（御絵図散銭として500文を得ている）、4月24日に本所仏母庵（第1表No.201）で<sup>391</sup>（御絵図弘通）、5月19日に牛込来迎寺（第1表No.247）で（御絵傳弘通）、7月7日に河内屋興兵衛宅で（立山様懸ける）、それぞれ招講を催し、立山曼荼羅を絵解きして勸進活動を行っている。

なお同檀那廻日記の巻末に招講の開催状況が「御絵図招講覚」として一括して記載されているが、その内容は第6表に示すとおりである。ただこの覚書には祠堂金額が全く記載されず、招講による総収入は明らかでない。

一方、明治元（1868）年の江戸の檀那廻日記『檀那廻日記 越中立山寶泉〔以下欠損〕明治元戊辰歳仲冬（梵字）吉〔以下欠損〕』の巻末に「御絵傳様賽銭覚法待」として、越後国頸城の西尾三郎右衛門をはじめ仏母庵<sup>391</sup>や左官喜之助<sup>391</sup>（第1表No.255）など9件が記載されているが、その中に1貫730文（西尾三郎右衛門）や1貫860文（左官喜之助）、1貫500文（樽屋傳四郎）、914文（土浦藩南六軒堀の山本元悦）などの金額が見られる。



第6表 芦峯寺宝泉坊の招講勤修状況（宝泉坊の元治2年の江戸檀那廻日記より）

勤修期日	勤修檀那宅	住所	第1表掲載番号
4月16日	福田屋近衛門	住所未詳	
4月24日	仏母庵	北本所馬場町	第1表 No.201
4月24日晚	小宮山利助	牛込御門之内土手四番町	
5月8日	石井徳左衛門	谷中の先、三浦志摩守屋敷	
5月10日	中川興四蔵	稲葉丹後守屋敷	
5月19日	米迎寺	牛込高田馬場下	第1表 No.247
5月20日	寺嶋円蔵	小石川御掃除組屋敷	
5月21日	橋屋興七	小石川伝通院前	
5月22日	三笠平兵衛	小石川御門内松平讃岐守中屋敷	
5月22日	宮沢 之助	小石川同心町	
5月23日	中村六之助	小石川御門内松平讃岐守中屋敷	
5月24日	丸屋豊蔵	小石川仲町	
5月25日	飯沢庭作	小石川鷹近町、御坊主衆	
5月26日	市村半内	飯山藩本多相模守中屋敷	
5月27日	相模屋佐平治	小石川伝通院前	
5月28日	鳶屋	いずれの鳶屋か判別できず	
閏5月3日	加賀屋嘉助	牛込赤城下五軒町	
閏5月4日晚	伊勢屋喜兵衛	麴町13丁目、米店	
閏5月5日晚	丹波屋源兵衛	牛込改代町	
閏5月6日晚	大村源次郎	住所未詳	
閏5月7日	左官豊蔵	牛込馬場下片町	
閏5月8日晚	願岡・邑村院	住所未詳	
閏5月13日	江坂卜庵	浅草広小路日暗院地内	
閏5月13日	小口屋幸吉	深川西平野町、大工	
閏5月16日	植木屋按吉	住所未詳	
閏5月17日	左官喜之助	南本郷石原町梅堀	第1表 No.255
閏5月19日	太田屋喜太郎	本所松井町2丁目、薪問屋	
閏5月21日	伏見屋政左衛門	木場三好町	
閏5月30日	太田屋喜三郎	本所松井町2丁目、薪問屋	
6月1日晚	太田屋徳兵衛	本所松井町2丁目、薪問屋	
6月10日	紺屋石五郎	深川扇橋	
6月15日	三河屋文七	桜田備前町	
6月16日	太田屋興兵衛	住所未詳	
6月17日	大沢氏	いずれの大沢氏か判別できず	
6月18日	大坂屋忠兵衛	芝井町	
6月20日	松平市正	外桜田松平河内守屋敷	第1表 No.129
6月28日晚	永井太之丞	本郷御弓町	第1表 No.278

凡例 一、同表は、宝泉坊の元治2年の江戸檀那廻日記『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎 扣元治二乙丑星正月（梵字）吉日』（芦峯寺雄山神社所蔵）の巻末の「御絵図招講覚」の内容を示したものである。

e 芦峯寺各宿坊の勸進方法に見られる個性

江戸に檀那場を保有する芦峯寺各宿坊の勸進方法の有様を見ていくと、それらは全てが共通しているわけではなく、各宿坊ごとに得意分野があるようである。

吉祥坊の勸進方法は牛玉宝印や護摩札、守護札、木札などの護符類の頒布と仏前廻向を主体としている。こうした勸進方法は、例えば、三河国を檀那場とする善道坊をはじめ、他の宿坊の勸進方法に最も多く見られるオーソドックスな形態である。ただし、しいて吉祥坊の勸進方法の特徴を指摘するならば、禿薬反魂丹の頒布を積極的に行い利益をあげている点である。なお、宝泉坊も檀那先で時折反魂丹を頒布しているが、それが勸進活動において中核的な頒布品だったわけではない。

福泉坊の勸進方法も吉祥坊のように護符類の頒布を主体としている。

一方、宝泉坊の勸進方法は、吉祥坊や福泉坊の勸進方法の形態とは異なっている。宝泉坊の勸進方法は祈祷奉仕と各種奉加を主体としており、副次的に牛玉宝印などの護符類を頒布するといった形態である。宝泉坊においては、護符類は江戸郊外では一応商品として、名主に依頼し組織的に各檀那に頒布したが、江戸御府内では、世話になった檀那宅で御札の品として配布したり、師檀関係を結ぶ大名に献上したりする、いわば粗品の要素が強かった。この他、宝泉坊の勸進方法の特徴としては、前年の予約に基づく経帷子の大量頒布や、血盆経・血脈などの女性救済に関する品々の頒布があげられる。さらに、連日のように各檀那宅で行われた招講の形態は、浄土真宗の在家宅で僧侶を招いて勤修される報恩講の形態を彷彿させる。

2.2.3 勸進活動における運営的側面

a 土産の持参

宝泉坊の元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記より、同坊衆徒が廻檀配札の際、現地での世話人の檀那やそれに準ずる檀那、或いは廻檀中特に世話になった檀那、その他大名屋敷の大名やその取り次ぎの家臣及び女中方、有力寺院の関係者などに、土産として今川橋長井長右衛門方で仕入れたうづ飴、葛袋、ぜんまい（袋入り）、神奈川の亀の甲せんべい（袋入り）、盃、茶、ちんね漬け、足袋、団扇、蜜茸などを献上していたことが確認できる。

また明治（1868）元年の江戸の檀那廻日記『檀那廻日記 越中立山寶泉〔以下欠損〕

明治元戊辰歳仲冬（梵字）吉〔以下欠損〕』によると、同（1868）年に別格の檀那である松平和泉守の屋敷を訪れた際には、土産として葛、椎茸、砂糖、茶葉子、紙水引、岩茸などを用意し、しめて1両2朱5貫442文を遣っている。

一方、吉祥坊も檀那場滞在中の宿として特別世話になる檀那（廻檀配札の際には起点となる。）や仏具などの諸品の寄進者、大名屋敷などへは、土産として立山の葛を持参した。持参状況は第7表に示すとおりである。

第7表 江戸の檀那場における芦峯寺吉祥坊の檀那への土産の持参状況

【立山の葛】

檀那名	掲載	宿	住 所	該 当 区
玉屋勝四郎	001		江戸表二番町	麹町区
木間権殿助	002		江戸表二番町	麹町区
横山久左衛門	004	宿	市谷御門之内	麹町区
建部源左衛門	008	宿	飯田町二合半坂下	麹町区
大岡朔負	011		神田小川町広小路	神田区
伊勢屋久治郎	014	宿	霊岸島本湊町1丁目	京橋区
相模屋丹治郎	022	宿	霊岸島本湊町	京橋区
遠州屋嘉兵衛	026		霊岸嶋富嶋町火見之下	京橋区
住吉屋久治郎	028		亀島町河岸通り	日本橋区
淡路屋伊助	031	宿	霊岸島南新堀1丁目大川端	京橋区
岡部善右衛門	037	宿 御殿札取次	松平相模守様御中屋敷	日本橋区
平松屋藤助	113	中ノ歳木魚之御世話方	尾張町1丁目	京橋区
橋屋市兵衛	114	木魚御世話人	尾張町新屋	京橋区
三河屋参右衛門	170		麹町8丁目	麹町区
渡辺吉右衛門	182		麹町10丁目（尾張殿御家中）	麹町区
国領正太郎	201		牛込神楽坂中程	牛込区
本多美濃守	213		駿河台鈴木町	本郷区
小尾直治郎	237	宿	本多美濃守様 本郷森川加州様表御門前通り	神田区
三河屋七郎右衛門	287		下町	南豊島区

【葛箱】

檀那名	掲載	宿	住 所	該 当 区
釘屋助八	057	定宿	京橋弥左右衛門町	京橋区
三河屋忠七	163		麹町平河天神下	麹町区

凡例 一、同表は、芦峯寺吉祥坊の嘉永元年の檀那帳『御祈禱檀那帳[ ]申歳八月吉日』（芦峯寺雄山神社所蔵）に掲載された内容を解説し、それに基づき、特に檀那への土産の持参状況を示したものである。



## b 勸進収益の預け入れ

宝泉坊の元治2(1865)年の江戸の檀那廻日記の巻末には「御初穂等預ケ覚」が記載され、それによると3月27日より7月7日まで、1回につき3両とか5両、或いは10両とか15両といった金額を14回にわたって本舟町の長沢屋由松(第1表No.003)に総額90両14貫500文を預けている。

また、明治元(1866)年の江戸の檀那廻日記『檀那廻日記 越中立山寶泉〔以下欠損〕

明治元戊辰歳仲冬(梵字)吉〔以下欠損〕にも、その末尾に「御初穂預ケ覚」として「二月廿七日 一金五両預 長沢屋問家江預ケ、三月廿二日 一金五両預 同問家様預ケ」と見え、やはり初穂料などの収益はある程度金額になると長沢屋由松に預けている。

## c 江戸滞在中の支出

宝泉坊の江戸滞在中の諸経費については、宝泉坊の元治2(1865)年の江戸の檀那廻日記の巻末に「江戸ニ而小懸覚」として記載されている。それによると3月9日から7月14日までの支出総額は82両1分2朱290文である。

その項目には宿泊費や食費、遠方に移動するための旅費などをはじめ、それ以外に法華経1分(2朱250文・1分2朱)、陀羅尼(100文)、祝詞(440文)、御幣3袋(2朱150文)、位牌彫(200文)、燈明皿(350文)、鉦(2分72文)、勸化帳(1朱)、吉原講中帳面(1分)、寺嶋氏位牌分(2分1朱)、大幕(2両)、供物(2朱)、常花2本(1両3分2朱)、産砂1服(3両1朱116文)、白衣1枚(2分1朱)、輪裂紗衣(2分2朱209文)、紋付帷子(1両1分)、丸帯1筋(1分)、下帯2筋(750文)、足袋2束(940文)、下駄1束(370文)、雨合羽1枚(3朱)、傘1本(1貫630文)、椎茸(424文)、寒天(200文)、紙(56文)、美濃紙1尺8寸(360文)、筆3本(212文)、扇子1本(333文)、其榮堂久八への風呂敷(2朱1分)、扇(400文・224文)、きんちゃく(200文)、火打石(500文)、箸7膳(700文)、松ヤニはんだ(150文)、剃刀1挺(5丸5分)、鷹羽紋11枚(1朱200文)、新書画(100文)、絵28枚(1朱)、朱丹(100文)、綿(1両)、白木綿2反(1両)、本紅綿(22丸2分)、紺綿2尺(13丸2分)、京綿布地(3分2朱)、手織1つ(232文)、綿中入100枚(1両3分)、月代入湯(100文・200文)、根岸での芝居見物(56文)、見せ物見物(34文)、寺院等への祠堂金(不動尊1分3朱)、仕立賃(150文)、渡辺氏駄賃(3朱124文)久八日雇賃(600文)、荷物1包5貫100目の送料(3貫506文)、木魚彫賃(6丸)など、様々な費用が見られる。

また、宝泉坊の慶応3(1867)年の江戸の檀那廻日記の巻末にも「江戸ニ而小懸」として記載され、それによると支出総額は47両3朱29文である。その項目のうち、前掲に

見られなかったものをあげると羽織袴（2分1朱）、股引（3貫600文）、脚半（1分）、提灯2体（1朱200文）、針子30（1分276文）、厨子1つ（3朱）、経典（2朱）、のり入1枚（404文）、のり入2枚（5丸）、のり入3枚（1貫文）、芋皮2筋根（1分3朱）、柿の皮（16文）、飛脚賃（1貫560文）、髪結代（72文）、按摩賃（164文）、などがある。

さらに明治元（1868）年の江戸の檀那廻日記『檀那廻日記 越中立山寶泉〔以下欠損〕明治元戊辰歳仲冬（梵字）吉〔以下欠損〕』の巻末にも、「諸造用萬覚」として記載され、それによると支出総額は22両2分120丸1分57貫754文である。その項目のうち、前掲に見られなかったものをあげると水引、菓子、砂糖、酒代、煙草、塗香、葛、マタタビ、岩茸、洗濯代などがある。

#### d 廻檀配札活動による1シーズンの収益

宝泉坊の元治2（1865）年の江戸の檀那廻日記から、記載のある金額だけを対象として、宝泉坊の同年の廻檀配札活動における収入と支出を見ていくと、収入としては、各所奉加が626両2分2朱399文と白銀1枚及び衣3枚、別祈禱料・廻向布施料が27両1分1朱412文、日月茶牌料が14両3分3朱、血盆経料が6両2分2朱403文、経帷子料が65両1分があげられ、これらを合計して740両3分1214文と白銀1枚及び衣3枚となる。

支出は、江戸における諸造用（江戸滞在期間のみ）が82両1分2朱290文である。

収入から支出を差し引くと658両1分2朱924文と白銀1枚及び衣3枚となり莫大な金額であるが、ただし宝泉坊の元治2（1865）年の勧進活動は、その目的は明らかではないが、通常は行わない諸大名家への奉加が見られ、その収益金が収入の大半を占めており、その年だけは特異な勧進活動を行っていたといえよう。

一方、宝泉坊の明治元（1866）年の江戸の檀那廻日記『檀那廻日記 明治元戊辰歳冬（梵字）吉日〔欠損〕舎』の巻末に覚えとして次のように記載されている。

覚

一金拾四両貳分ト貳メ四百文	廻向料
一金貳拾壹両三分貳朱	日牌両
一金五両	和泉守様御祈禱料
一金七両	御拝領御力料
一金三拾兩貳分	帷子料 七十七枚
一金貳兩壹分ト十メ四百八十文	
一金十三兩貳分貳朱ト八メ貳百三十文	西尾分
七口メ金百貳兩三分ト貳拾壹メ百十二文ト也	

外ニ御初穂等之阿リ

万端指引

金六拾四兩貳朱 持山(参)リ

これによれば、宝泉坊は明治元(1886)年には初穂料を含まない収益ではあるが、64両を芦峯寺に持ち帰ったことが確認でき、これが宝泉坊の廻檀配札活動による本来的な収益であると考えられる。

ところで、宝泉坊や吉祥坊など、大都市江戸で廻檀配札活動を行った宿坊については、檀那衆の経済的水準が一般的に高く、また初穂料や祈禱料は全て金納であり、勧進収益は比較的安定していたと考えられる。しかし、芦峯寺各宿坊の勧進状況を総体的に見た場合、その大多数がどちらかといえば諸国の農村・山村・漁村地域を基盤として檀那場を形成しており、全国的に不作の年は廻檀配札活動にもその影響が及び困窮せざるえなかった。

具体的な例として、嘉永4(1851)年に芦峯寺が加賀藩寺社奉行所に宛てた書付<sup>40)</sup>によると、各宿坊は冬期(嘉永3年の冬～)の自他国での檀那配札廻りに対し他昔をして準備を整え、その時期が来ていざ廻檀配札に出かけてみると、世上一円が不作のため檀那場では施財の志も皆無で日々の造用にも困るといった状況で、結局赤字を出してしまったという。その際、例年廻檀配札活動に出かけた衆徒たちは4月下旬から5月中旬に帰山するところ、当年は檀那場でも配札や宿泊を断る家が過半数で、各衆徒はしかたがなく早春に早々と帰山してきたという。

おわりに

以上、近世幕末期、芦峯寺宿坊衆徒が江戸の檀那場で行った廻檀配札活動の構造について分析・検討を試みたが、最後にその特徴を若干指摘したい。

嘉永期の吉祥坊と宝泉坊の檀那総数はそれぞれ312人と369人で、平均すると約340人である。仮に実相坊と相楽坊も同規模の檀那場及び檀那を保有したとすると、4宿坊の檀那総数は1,360人である。さらに福泉坊のように江戸に隣接する武蔵国に檀那場を保有するかたわら、江戸にも若干の檀那を保有する場合が見られるが、こうした事例は上総・安房を檀那場としたと伝えられる玉泉坊にも該当すると想定され、仮にそれぞれの檀那数を25人ずつとして考えると50人で、先述の4宿坊の1,360人と合わせると1,410人となる。嘉永期に江戸の檀那場で芦峯寺宿坊と師檀関係を結んでいた檀那は大凡これく



らしいの人数であっただろう。

なお、慶応2（1866）年の宝泉坊の江戸の檀那帳に掲載された檀那総数は536人で、嘉永期よりもかなり増加している。おそらく幕末には、各宿坊の檀那総数は年々増加したものと考えられる。仮に慶応期に江戸を廻檀した4坊が全て500人の檀那を有したとすると、当時の江戸の檀那総数は2,000人程になる。各宿坊の檀那総数が300人から500人ぐらいであることは、大凡この程度が、1シーズン中にそつなく廻るには適当な人数だったのであろう。江戸を檀那場とした場合、前章で指摘したとおり、対象人数はこれだけでもそれ相応の収益があった。

さて、芦峠寺衆徒は末社を勧誘して信仰圏を拡大・維持していく形態はとらず、あくまでも衆徒と現地の檀那との直接的な触れ合いの中で手堅く立山信仰の信仰圏を拡大していった。特に江戸を檀那場とした各宿坊においては、前述のごとく檀那場が極端に拡大し過ぎることはなく、廻檀可能な範囲の檀那数を維持しているようである。そしてそれは、やはりただひたすら立山信仰を広く布教さえすればよいといった教線拡大を中心とした考え方ではなく、むしろ確実な檀那場の維持とそれによる収入源の確保が第一義であった。それゆえ100万人をはるかに越える江戸の人口のうち数千人ばかりではあるが、芦峠寺衆徒の毎年定期の勧進活動によって、がっちり心をつかまれた檀那衆各個人への立山信仰の浸透度はかなり深いものがあったといえる。

ところで今回本稿では、近世幕末期、芦峠寺衆徒が江戸の檀那場で行った廻檀配札活動の構造について検討を試みたが、実相坊と相栄坊の実態については全く触れていないので、江戸の檀那場全てを見通したわけではない。また、経済的な面の考察については、越中から江戸までの道中を移動する際に必要な諸経費や、この間にも若干の檀那場及び檀那が存在するわけで、その分の収入や支出については全く考慮することができず、大づかみでは廻檀配札活動の規模を指摘したものの、いささか緩慢な内容となってしまった。さらに幕末期といった特定の時期しか対象とすることができず、江戸時代各期における各宿坊の檀那場の規模や入り組み状況、檀那構成など、檀那場を構成する諸要素の展開については全く触れることができなかった。これらの問題を検討していくことは、檀那帳史料の残存状況からみて、かなり厳しい状況にあるが、新たな史料の発掘にもつとめながら、今後の検討課題としていきたい。

## 註

- 1) 延宝3（1675）年に芦峠寺衆徒・神主中が加賀藩郡奉行に宛てた書付（「一山旧記

控』『越中立山古記録Ⅰ』所収、18頁、廣瀬誠・高瀬保編、桂書房、1990年）によると、立山には高貴山と金峯山の両峰があり、かつては峰入修行や柴燈護摩などの修法を行っていたが、それも途絶えてしまったとある。この記述が物語るように、芦峯寺衆徒は江戸時代の比較的早い時期に、例えば当時大峰山や出羽三山など各地の靈山で行われていたような、山中での峰入などの修験道の修行を行わなくなってしまったようである。

- 2) 「布橋大灌頂と白山行事」『白山・立山と北陸の修験道（山岳宗教叢書10）』所収、五来重、名著出版、1977年
- 3) 「越中立山女人救济儀礼再考」『月刊 藝能 1992年2（特集 死と再生）』所収、岩鼻通明、1992、「布橋灌頂会の変遷について一文政期から天保期を中心として」『富山史壇 第113号』所収、福江充、越中史壇会、1994年、「布橋灌頂会に関する一考察」『北陸の民俗第11集』所収、福江充、北陸民俗の会編集、1993年
- 4) 「我が国の擬死再生儀礼と立山布橋大灌頂会（前篇）」菊池武、富山県[立山博物館]調査研究報告書、1994年、「我が国の擬死再生儀礼と立山布橋大灌頂会（後篇）」菊池武、富山県[立山博物館]調査研究報告書、1995年
- 5) 「芦峯寺善道坊諸国廻那廻りの実態」『富山史壇 第67号』所収、寺口けい子、越中史壇会、1977年、「立山信仰と勸進」『白山・立山と北陸の修験道（山岳宗教叢書10）』所収、日和祐樹、名著出版、1977年
- 6) 芦峯寺衆徒の加賀藩領国外での廻那配札活動について、これまで通説として江戸時代後期に芦峯寺の38軒（33衆徒・5社人）の宿坊は、九州から東北に至る日本各地で廻那場を形成し、各宿坊衆徒は毎年農閑期に例えば日光坊は尾張国、善道坊は三河国といったように、それぞれが持ち場とする廻那場へ廻那配札活動に出かけたとされる。そして日本全国を網羅した各宿坊の廻那場の分布図も制作されている。しかし芦峯寺衆徒が文政7（1824）年閏8月に定めた諸国廻那の定書（「諸国廻那会得之定書 立山廻那仲間中」『越中立山古記録Ⅰ』所収、123～124頁、廣瀬誠・高瀬保編、桂書房、1990年）には、廻那仲間中として芦峯寺33衆徒5社人のうち26衆徒しか連判しておらず、そしてその中に社人は含まれていない。なお連判していない衆徒は竜泉坊（廻那場は駿河・相模と伝えられる）、浄光坊（廻那場は紀伊と伝えられる）、教順坊（廻那場は若狭・丹後と伝えられる）、大乘坊（廻那場は播磨と伝えられる）、一相坊（廻那場は肥後と伝えられる）、正栄坊（廻那場は筑前と伝えられる）、宝珠坊（廻那場は出羽と伝えられる）である。また、明治2（1869）年4月、立山芦峯東社人から寺社奉行所へ出願された復飾に関する嘆願書（「復飾ニ付歎願書願書」『越中立山古記録Ⅱ』

所収、271～272頁、廣瀬誠・高瀬保編、桂書房、1990年）に、「一芦峠他国配札之義者、三拾八軒之内式拾八人、自分働を以拾五ヶ国之内飛々配札、村数精々相勵ミ候得共、貝家ハ僮之事ニ御座候。其内ニも四五人之者ハ、近年造用引負、怠勝ニ御座候。」と記載され、幕末においては38軒の宿坊のうち28軒の宿坊だけが、いずれかの15カ国を檀那場として、互いに入り組み合いながら廻檀配札活動を行っていたことがわかる。このように芦峠寺文書等の史料に基づき芦峠寺衆徒の廻檀配札活動を再検討した場合、これまでの通説とはかみ合わない部分も所々出てきている。今後、芦峠寺衆徒の廻檀配札活動を総体的に捉えようとするならば、やはりそれ以前に日本各地の檀那場の実態について、その地域性も考慮しながら、より具体的な調査・研究を行っていく必要がある。

- 7) 富山県〔立山博物館〕所蔵の版本資料のなかで、『除劔難』と題し「立山御嬬尊供」などの諸供養の名称や神仏の名称を刻んだ版本の裏面に、墨書で「半数四ツ右之 江戸仲間中之 實相坊 吉祥坊 相栄坊 宝泉坊」と記されており、江戸時代には芦峠寺宿坊家のうち、少なくとも実相坊、吉祥坊、相栄坊、宝泉坊の4坊が、江戸を檀那場としていたことがわかる。また、慶応2年の宝泉坊の江戸の檀那帳『東都檀那帳 越中立山寶泉坊興脈扣 慶應二年寅正月日』の末尾に吉祥坊と相栄坊と実相坊の止宿所が記されているので、これらの宿坊家が江戸で廻檀配札活動を行っていたことがわかる。
- 8) 『立山信仰の源流と変遷』309～311頁、佐伯幸長、立山神道本院、1973年。  
『立山僧徒の布教活動』『立山町史』所収、803～838頁、立山町、1977年。
- 9) 「立山講社の活動—近代化のなかでの模索」『富山県〔立山博物館〕研究紀要 第3号』所収、16～19頁、福江充、富山県〔立山博物館〕、1996年
- 10) 「近世後期における芦峠寺系立山曼荼羅の制作過程についての一試論」『富山県〔立山博物館〕研究紀要 第2号』所収、25頁、福江充、富山県〔立山博物館〕、1995年
- 11) 「市ヶ谷牛込絵図」『集約江戸絵図（中巻）』所収、112～123頁、古板江戸図集成刊行会、中央公論美術出版、1963年
- 12) 「礪川牛込小日向絵図」『集約江戸絵図（中巻）』所収、116～117頁、古板江戸図集成刊行会、中央公論美術出版、1963年
- 13) 「由緒書上帳 扣 立山元東神職 明治六癸酉年一月」『越中立山古記録 第3巻』所収、236頁、廣瀬誠編、立山開発鉄道株式会社刊、1991年
- 14) 「當山若僧定書帳 芦峠寺若僧中 天保三辰八月吉日」『越中立山古記録Ⅱ』所収、41頁、廣瀬誠・高瀬保編、桂書房、1990年



- 15) 嘉永期に江戸で廻檀配札活動を行っていた吉祥坊衆徒について、同坊の檀那帳には全く記載が見られないが、同坊の歴代衆徒の生没年から推測すると、泰順（慶応4年没）であったらう。
- 16) 芦峯寺権教坊の寛保3（1743）年の檀那帳『旦那帳 寛保三癸亥年九月吉祥 立山権教坊』（芦峯寺雄山神社所蔵）など。
- 17) 「I 流行神の諸相 2 願かけの諸相」『江戸のはやり神』所収、43～45頁、宮田登、筑摩書房（ちくま学芸文庫）、1993年
- 18) 松竹梅小蓋半面の収納箱部材（富山県〔立山博物館〕所蔵）。部材の墨書より、文久3（1863）年5月、宝泉坊泰音は霞ヶ関の松平安芸守の側室裏町より餞別として松竹梅小蓋半面を寄進されたことが確認できる。
- 19) 富山市月岡の真言宗龍高寺に現存する大奥俗名リヲの位牌。位牌の裏には「御本丸善殊院智善妙通貞了大法尼」と記されている。
- 20) 「近世後期における芦峯寺系立山曼荼羅の制作過程についての一試論」『富山県〔立山博物館〕研究紀要 第2号』所収、22～26頁、福江充、富山県〔立山博物館〕、1995年
- 21) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵。

「四月八日 松平和泉守様へ参殿。御幣例歳之御札殿様御奥様分、葛苺箱御札四枚。女中方ニ茶式服ヅツ指上御目見仕、神前仏前拜礼いたし候。是方深川大殿様へ参り、例歳御札式枚、幣式箱ニ御札四枚、蘇麥粉苺袋、葛箱苺ツ指上ル。尤大殿様若殿様指上ル事。御目見之上御咄し是有候事。外ニ御政様瀧瀬様御札上ル。桜尾様ニも上ル。女中方ハ茶ヲ上ル。」

「五月十八日 昼後方雷気也 深川和泉守様江御目見仕、神前仏前江拜礼いたし、」

「閏五月廿三日 松平和泉守様へ勅化帳指上ル置候事。」
- 22) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵。

「五月十四日 外桜田 松平中務土浦様江御札献上。殿様若様奥様御新造様琴姫様録平様メ六方様分上ル。外ニ葛苺ツ上ル。御目見いたし御願申上候。一金式百疋、御奥様方方。関の□□し苺箱御恵賜。」

「七月三日 天気 外桜田 豊後杵築城主松平中大輔様へ参殿仕、勅化帳御格々様記帳被下。」
- 23) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山

神社所蔵

「同（5月）三日 降り 吉原講中枿いせ屋方へ、例歳之通り四十五軒分大札大牛玉茶壺ツ指上ル事。大丸盃十為寄付指上ル事。勸化帳出シいたし置候事。」

「五月七日 天気 根岸ヲ吉原江配札。松坂屋葛上ル。伊勢安中昼食。」

『東都檀那帳 越中立山宝泉坊興脈扣 慶應二年寅正月日』芦峯寺雄山神社所蔵文書

「仲之町中松屋悦居より頼り付新助引請申候。右新助殿ヲ枿伊勢屋方へ相頼ニ付當時世話人、田町式丁目家主九兵衛店又茶屋町与申也。枿伊勢屋三四郎殿」

24) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵

「四月九日本所佛母庵ヲ足袋御札上ル。」

「四月廿四日 本所仏母庵江御絵図弘通ニ参り、風呂敷壺ツ。居々興脈手掛壺筋被下、」

25) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵

「五月十九日 天気 牛込来迎寺迄参覚、御絵傳弘通、布橋供養成シいたし、新幡通院御隠居様江、御目ニ懸り、勤戒置候。」

26) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵

「四月晦日 相栄坊等々相別シ、書状指出シ、是ヲ芝僧上寺山内大師寮 江参上仕。」

27) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵

「元治二丑正月廿二日出立、弟子興脈与兩人。尤名古屋為真長式人、日光泉蔵突相三学、左京吉祥福泉宝傳坊等ノ十二人中野村ニ而相別レ。一金壺兩式分ト貳貫七百文路用ニ出シ。」

28) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵

「（4月）本郷永井様芳善院様江参り、例年通り御札上ル。」

29) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵

「（3月14日）新宿講中、御札十七軒久右衛門方ニ預置候事。」

30) 註21) を参照。

- 31) 現在、富山県〔立山博物館〕所蔵の版木資料のうち、吉祥坊関連のものには、牛玉宝印「立山之宝」（裏面に「嘉永四亥年八月出来 寶傳坊老僧様手作 泰順代」の墨書がある）、牛玉宝印「立山之宝」（裏面に「立山吉祥坊」と刻字がある）、護摩供養札「立山大宮護摩供養敷 芦峯寺吉祥坊」、御守護の御守「(宝珠)立山大権現守護所」（裏面に「安政五午年 判木師 富山仲町萩田永治」の墨書と、「吉祥坊泰順代」の刻字がある）、「(梵字入り宝珠)立山大宮供諸願成就祈伎芦峯寺吉祥坊」、「(梵字)立山長日護摩供開運出世子孫繁昌伎 芦峯窟吉祥坊」、「立山御祈袴寶贖 芦峯窟吉祥坊」、血盆経の版木2点（いずれも裏面に「血盆経版木貳枚并上判合シテ三ツ 御施主三州岡崎城主本多美濃守様藩小崎六三郎殿寄附 東都大名小路御屋敷内 元治元甲子年五月吉日 吉祥坊現住泰順代」の墨書がある）、位牌の雛形（裏面に「立山吉祥坊」の墨書がある）、黄胖丸の効能書（立山吉祥坊法印寛光）が見られる。
- 32) 富山市月岡真言宗龍高寺所蔵の金剛盤の裏面に、「奉寄附江戸下谷中御徒町 小林金平 藤原正利 為障礙怨敵退散 萬延元庚申五月日 立山芦峯寺寶泉坊現住泰音代」と刻まれ、この金剛盤が万延元年に江戸下谷中御徒町の小林金平と藤原正利によって宝泉坊泰音に寄進されたものであることがわかる。またこの他、龍高寺には「覺了院心靜即生居士」（安政4年8月27日没）と「貞順院直方含章大姉」（嘉永7年正月22日没）の二人をともに祭った位牌が残されているが、嘉永6年の『媯堂境内六地藏尊石像造當施主等覚』（芦峯寺雄山神社所蔵）から、それは小林金平の父母の位牌であることがわかる。
- 33) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵  
「閏五月廿日 松平和泉守様へ勸化帳指上置候事。是方長沢屋返り泊り。」
- 34) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵  
（家紋）善珠院智菩妙通貞了大法尼  
永井家十世直道院裏方  
（家紋）芳善院清菩直到淨刹大法尼  
右二靈者、御本丸等方別番勸化御世話被下置候事ニ付、為謝礼位牌相承り候。
- 35) 『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦峯寺雄山神社所蔵  
「四月五日 天氣 深谷左源太様へ、例歳之通り牛玉守、茶十袋、葛袋、者し苅、ちんねづけ苅ツ、上御祈袴札上ル。御本丸勸化帳殿様ニ御授賜り候泊り。」



「四月十四日 天気 深川沢田屋、御本丸分記帳被下。」

- 36)『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦嶸寺雄山神社所蔵

「同八日（閏5月8日） 願岡頼母様、邑村院様江招講ニ付参り、松平傳兵衛様御内千萩院様被参、次々、忠岩院様・壯山兩人参り、川越大和様御奥江勸化帳被出候。段々御□り候。次々伝兵衛様方へ勸化仕、」

- 37)『檀那廻勤帳 越中立山宝泉精舎扣 元治二乙丑星正月（梵字）吉日』芦嶸寺雄山神社所蔵

「四月廿四日 本所仏母庵江御絵図弘通ニ参り、風呂敷沓ツ。居々興脈手掛沓筋被下、」

「五月廿七日 相模屋佐兵衛殿招講ニ付御絵図ヲ懸ケ。泊り。」

- 38)『檀那廻日記 越中立山寶泉〔以下欠損〕 明治元戊辰歳仲冬（梵字）吉〔以下欠損〕』芦嶸寺雄山神社所蔵

「（2月24日）是方本所馬場佛母庵ニ而御絵図講待被成候。」

- 39)『檀那廻日記 越中立山寶泉〔以下欠損〕 明治元戊辰歳仲冬（梵字）吉〔以下欠損〕』芦嶸寺雄山神社所蔵

「（4月20日）本所石原町左官喜之助殿参り。昼食いたし。尤御絵図様講招被極。泊り。」

- 40)「當山速要御用留 定目代 天保十三寅年」『越中立山古記録Ⅱ』所収、116～117頁、廣瀬誠・高瀬保編、桂書房、1990年

「何故者旧冬自他国江檀那配札廻ニ罷出候得共、世上一円之不作ニ付、檀那先施財之志も皆無ニ而日々之造用ニも不行届、殊ニ旧冬発足以前方他昔を以仕込等仕り罷越候処、皆々損分ニ相成、剩例年者四月下旬方五月中旬ならでハ帰山不仕衆徒ニ候処、当年者檀那先旧縁之場所等も配札者勿論、止宿等迄相断申ケ所過半有之候ニ付、無據早春ニ各坊空敷帰山仕候故、一山老若愕然与歎息仕、就夫累年方別而喰用喰越難洪打重リ迷惑仕居候。」